

EPSON

EasyMP™

活用ガイド

Offirio
オフィリオ プロジェクター

EMP-835



ネットワーク経由でコンピュータの映像を 投写する(Network Screen)

ツールバーの使い方.....	4
各アイコンの名称と働き	4
プレゼンテーションモード.....	5
割り込み禁止	6
Eズーム.....	6
基本設定	7
接続したいプロジェクターが表示されないときは.....	8
IP アドレスを指定して接続.....	8
グループを作成して接続.....	11
無線 LAN のセキュリティ対策.....	18
簡単接続モードで暗号化通信したいとき	19
簡単接続モード時に不正アクセスを防ぐ(NS Protect)	19
無線 LAN アクセスポイントモードで暗号化方式・ 認証方式を設定する	20
ESSID 自動検索を無効にする	24

プレゼンテーションの準備 (EMP SlideMaker2の使い方)

コンピュータレスでプレゼンテーション するときの流れ.....	26
シナリオに組み込めるファイル	27
シナリオの作成.....	28
シナリオのプロパティを設定する	28
PowerPoint ファイルをシナリオに組み込む.....	30
画像や動画ファイルをシナリオに組み込む	32
シナリオを編集する	34
シナリオの転送.....	35
こんなときには.....	37
シナリオの簡易作成	37
コンピュータ上でシナリオの投写状態を確認する	38
アニメーションの設定を行う	39

プレゼンテーションの実行 (CardPlayerの使い方)

CardPlayer で投写できるファイル	42
CardPlayer の使用方法	43
CardPlayer の起動方法	43
CardPlayer の終了方法	44
CardPlayer の基本操作	45
シナリオの投写	48
シナリオの再生	48
プレゼンテーション中の操作	49
シナリオからスライドを選んで投写する	49
シナリオの編集	50
画像・動画ファイルの投写	52
画像・動画を投写する	52
フォルダ内のすべての画像・動画ファイルを順番に投写する (スライドショー)	53
画像・動画ファイルの表示条件と操作モードを 設定する	54

コンピュータを使ってプロジェクターの 設定・監視・制御をする

Web ブラウザを使って設定を変更する (EasyWeb)	57
EasyWeb を表示する	57
プロジェクターの設定	58
プロジェクターの制御	58
メール通知機能で異常を通知する	59
メール通知機能の設定	59
異常通知のメールが送られてきたら	60
SNMP を使って管理する	61

ネットワーク経由でコンピュータの映像を投写する(Network Screen)

ここでは、Network Screen使用時に接続したいプロジェクターが見つからなかったときと、無線LANのセキュリティ対策について説明します。

ツールバーの使い方	4	無線LANのセキュリティ対策	18
• 各アイコンの名称と働き	4	• 簡単接続モードで暗号化通信したいとき	19
• プレゼンテーションモード	5	• 簡単接続モード時に不正アクセスを防ぐ	
• 画像を変更する	5	(NS Protect)	19
• 割り込み禁止	6	• 無線 LAN アクセスポイントモードで暗号化方式・	
• E ズーム	6	認証方式を設定する	20
• 基本設定	7	• ESSID 自動検索を無効にする	24
接続したいプロジェクターが表示されないときは	8		
• IP アドレスを指定して接続	8		
• グループを作成して接続	11		
• グループの作成	11		
• グループを使用して接続	14		
• グループのエクスポート(書出し)	15		
• グループのインポート(読み込み)	16		

各アイコンの名称と働き

コンピュータとプロジェクターをネットワーク接続すると、次のツールバーがコンピュータの画面に表示されます。以降の説明では、断りのない限り Windows の画面を載せています。Macintosh でも同等の画面が表示されます。



各アイコンの働きは以下のとおりです。

①		ヘルプ	EMP NS Connectionのヘルプを表示します。
②		割り込み禁止 [Windows の場合]	接続中のプロジェクターへの割り込み接続を禁止します。クリックするたびに割り込み禁止のON/OFFを切り替えます。☛ p.6
③		プレゼンテーションモード [Windows の場合]	PowerPointのスライドショーだけをプロジェクターに投写します。クリックするたびにプレゼンテーションモードのON/OFFを切り替えます。☛ p.5
④		接続状況画面	クリックするたびに、接続状況画面の表示/非表示を切り替えます。接続状況画面を表示すると、現在接続しているプロジェクター名のアイコンが緑に表示されています。接続状況画面では、接続切り替えや追加して接続するなどの操作はできません。

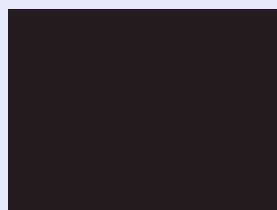
⑤		プロジェクター操作URL表示	EasyWebが表示されます。 ☛ p.57
⑥		静止	リモコンの[静止]ボタンと同じ機能です。 ☛『取扱説明書』『静止機能』
⑦		ミュート	リモコンの[A/Vミュート]ボタンと同じ機能です。 ☛『取扱説明書』『A/Vミュート機能』
⑧		Eズーム	プロジェクター本体のEズーム機能と同じ機能です。設定画面を表示して、見たい部分を拡大できます。 ☛ p.6
⑨		基本設定	設定画面を表示して、明るさ、コントラスト、カラーモードを設定できます。 ☛ p.7 プロジェクター本体の環境設定メニューの「画質調整」メニューで設定するのと同様に設定できます。 ☛『取扱説明書』『画質調整メニュー』
⑩		ビデオ系ソース切替	本体操作パネルの[ビデオ/S-ビデオ]ボタンと同じ機能です。 ☛『取扱説明書』『電源ON、投写開始』
⑪		PC系ソース切替	本体操作パネルの[コンピュータ/コンポーネント]ボタンと同じ機能です。 ☛『取扱説明書』『電源ON、投写開始』
⑫		切断	現在通信中のプロジェクターとのネットワーク接続を切断します。
⑬		動作状態インジケータ	コンピュータとプロジェクターがネットワーク接続しているときに、上、中、下の各インジケータが交互に点滅します。正しく接続できていないときは消灯しています。
⑭		終了	現在通信中のプロジェクターとのネットワーク接続を切断し、EMP NS Connectionを終了します。
⑮		最小化	ツールバーが最小化され、Windowsの場合はタスクバーにボタンとして表示されます。Macintoshの場合はDockに格納されます。

プレゼンテーションモード

「プレゼンテーションモード」をONにすると、PowerPointのスライドショーを実行したときだけ、プロジェクターにスライドショーの画像が送られます。スライドショー以外の画面はプロジェクターに投写されないため、スライドショーを実行するまでのファイル操作などを見せることなくプレゼンテーションを行うことができます。スライドショーを実行していない間、プロジェクターにはあらかじめ用意されている「Image.jpg」ファイルが投写されます。(下左図)この画像は、お好みのものに変更することができます。「Image.jpg」ファイルがない場合は、黒画面が投写されます。(下右図)



Image.jpg



黒画面



ポイント

- ON/OFF 切り替えはプロジェクターとの接続前、または接続中に行います。
- プレゼンテーションモードは、EMP NS Connectionを終了すると、自動的にOFFになります。

■ 画像を変更する

次の手順で「Image.jpg」をお好みの画像に変更します。

操作

1 以下の形式の画像を用意します。

ファイル形式	JPEG (JPEG2000には対応していません。)
横縦サイズ	最大1600x1200ピクセル
ファイル名	Image.jpg(必ずこの名前にしてください。)

2 用意した画像を EMP NS Connection がインストールされているフォルダ内のImageフォルダに保存します。

保存先の例:

C:\Program files\EPSON\NSConnection\Image

インストールフォルダ(初期設定)

3 EMP NS Connection を起動し直すと、変更した画像が有効になります。

割り込み禁止

コンピュータ側で割り込み禁止機能を ON にすると、接続中のプロジェクターへ他のコンピュータからの接続を拒否できます。複数台のプロジェクターと接続しているときは、接続しているすべてのプロジェクターが割り込み禁止の対象となります。

割り込み禁止機能を OFF にした時点で、他のコンピュータがそのプロジェクターと接続できるようになります。

割り込み禁止機能は自動検索モードのとき有効です。IP 指定接続モードのときは、割り込み禁止機能は無効です。



:割り込み禁止機能ONのとき



:割り込み禁止機能OFFのとき



:IP指定接続モードのとき(割り込み禁止機能が無効)

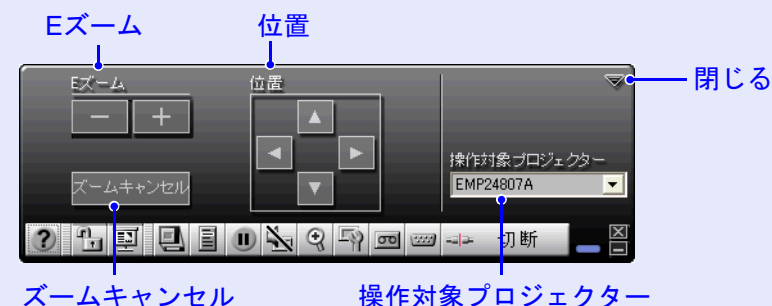


ポイント

- ON/OFF切り替えは、プロジェクターとの接続前、または接続中に行います。
- 割り込み禁止機能は、EMP NS Connection を終了すると、自動的にOFFになります。
- 割り込み禁止機能が ON の状態でも、プロジェクターとの接続を切断すると、他のコンピュータから接続できるようになります。
- Windows の場合、接続中のプロジェクターが割り込み禁止になっていることがあります。その場合でも、IP アドレスを指定すると優先的に接続されます。

Eズーム

「Eズーム」アイコンをクリックすると、次の設定画面が表示され、ズーム倍率や位置などの調整ができます。



Eズーム	Eズームの倍率を調整します。 「+」ボタン:拡大する 「-」ボタン:拡大した結果を縮小する リモコンの[⊕][⊖]ボタンと同じ機能です。
位置	拡大/縮小表示する部分を指定します。 プロジェクター本体のEズーム機能で、ターゲットスコープを移動して拡大や縮小をする部分を指定する機能と同じです。☞『取扱説明書』「Eズーム機能」
ズームキャンセル	Eズームを解除して元の表示に戻ります。
操作対象プロジェクター	操作対象のプロジェクター名を表示しています。 複数のプロジェクターに接続している場合は、Eズームの操作をするプロジェクターを選択します。
閉じる	この画面を閉じます。

基本設定

「基本設定」アイコンをクリックすると、次の設定画面が表示され、明るさ、コントラスト、カラーモードの調整ができます。



明るさ	投写映像の明るさを調整します。 「+」ボタン: 明るくなる 「-」ボタン: 暗くなる
コントラスト	画面の明暗の差を調整します。 「+」ボタン: 明暗の差が大きくなる 「-」ボタン: 明暗の差が小さくなる
カラーモード	リモコンの[カラーモード]ボタンと同じ機能です。 「カラーモード」ボタンをクリックするたびに、以下のよう に設定が切り替わります。 <pre> graph LR A[ダイナミック] --> B[プレゼンテーション] B --> C[シアター] C --> D[リビング] D --> E[sRGB] E --> A </pre>
操作対象プロ ジェクター	操作対象のプロジェクター名を表示しています。複数の プロジェクターに接続している場合は、基本設定を行う プロジェクターを選択します。
閉じる	この画面を閉じます。

接続したいプロジェクターが EMP NS Connection のプロジェクター選択画面に表示されない場合は、次の点を確認してください。

- 無線LAN接続の場合、電波が届かないか、弱くありませんか？
- 接続モードを正しく設定していますか？
- サブネットが異なっていませんか？

サブネットが異なるネットワーク上のプロジェクターに接続する場合は、「IP 指定接続モード」を使うと接続できます。IP 指定接続モードは、接続したいプロジェクターの [IPアドレス](#) を指定して接続する方法です。

Windowsで、簡単接続モードの場合は、次の点も確認してください。

- [ESSID](#) 自動検索が無効になっていませんか？ (Windows 2000/XP のみ)  『EasyMP ネットワーク設定ガイド』「コンピュータの無線LANを設定する」
- コンピュータの無線 LAN ドライバが NDIS5.1 に対応していますか？ (Windows 2000/XPのみ)
- 以下の場合、コンピュータ側で使用している ESSID(ネットワーク名)がプロジェクター側のESSIDと同じ名前になっていますか？
 - Windows 98/MEの場合
 - ESSID自動検索を無効にしている場合

Macintoshの場合は、次の点も確認してください。

- ネットワークの状態が正しいですか？
 - 簡単接続モードの場合、「AirMac: 入」を選択し、適切なプロジェクターのESSID名を選択していますか？
 - アクセスポイントモードの場合、「AirMac: 入」を選択し、適切なアクセスポイントを選択していますか？
 - 有線LANモードの場合、「AirMac:切」を選択していますか？
 『EasyMP ネットワーク設定ガイド』「コンピュータで EMP NS Connectionを起動する」

IP アドレスを指定して接続

次の手順で、IP指定接続モードの接続をします。
以降の説明では、断りのない限り Windowsの画面を載せています。
Macintoshでも同等の画面が表示されます。



ポイント

Windows の場合、EMP NS Connection の各画面に表示されている「」をクリックすると、機能の説明を見ることができます。

操作

1

プロジェクターをEasyMP待機画面にします。

 『EasyMP ネットワーク設定ガイド』「プロジェクターを接続待機状態にする」

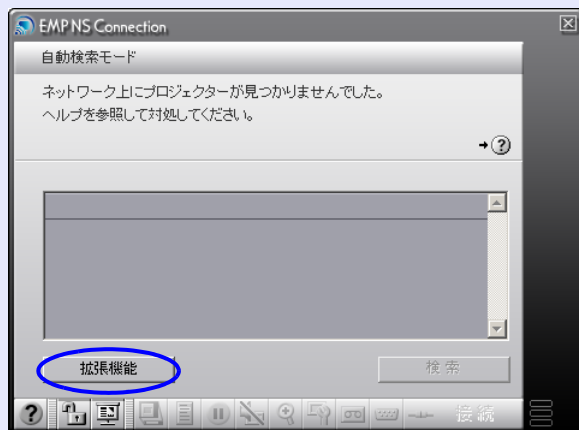
2

コンピュータで、EMP NS Connectionを起動します。

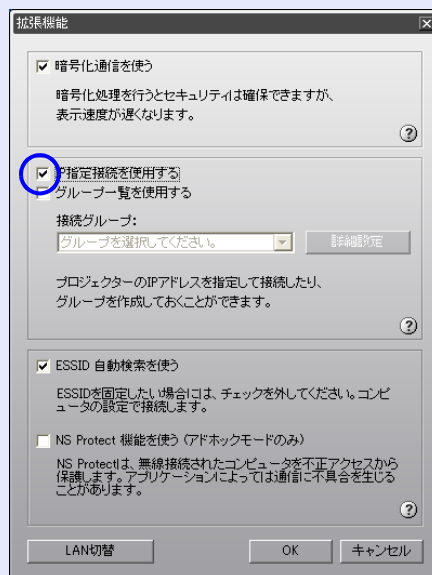
 『EasyMP ネットワーク設定ガイド』「コンピュータで EMP NS Connectionを起動する」の手順1～3



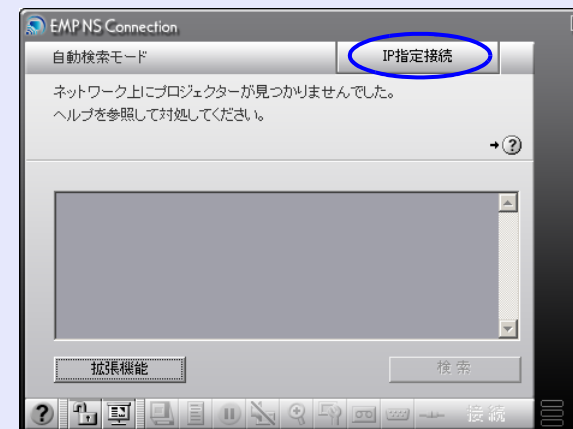
3 次の画面で、「拡張機能」ボタンをクリックします。



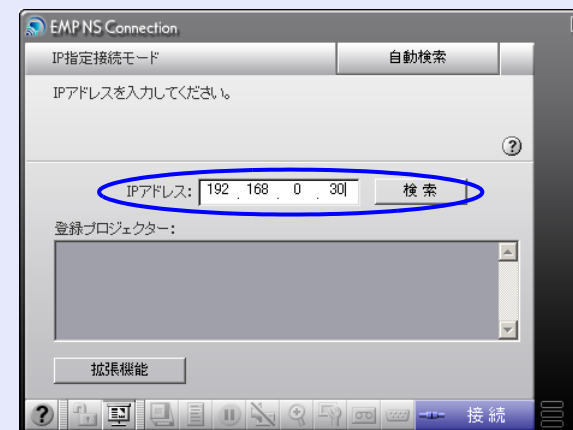
4 「IP指定接続を使用する」をクリックしてチェックマークを付け、「OK」ボタンをクリックします。



5 以下の画面が表示されます。画面の右上に表示されている「IP指定接続」をクリックします。



6 「IPアドレス」に接続したいプロジェクターのIPアドレスを入力し、「検索」ボタンをクリックします。



- 7** IPアドレスが「登録プロジェクター」に追加され、検索中であることを示すアイコンが表示されます。プロジェクターが見つかったら、「登録プロジェクター」にプロジェクター名が表示されます。さらにプロジェクターを検索したい場合は、手順6を繰り返します。

検索したプロジェクターは、「登録プロジェクター」に追加されていきます。



アイコンの色と形で状態を示しています。

- : 未接続
- : 他のコンピュータと接続中
- : 現在検索中
- : 検索したが見つからなかったもの

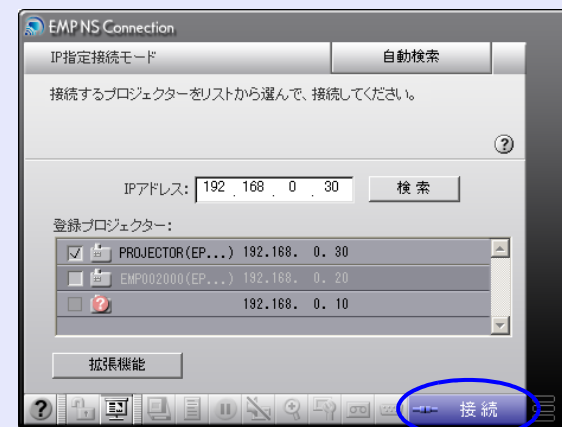


ポイント

- 最大16台までプロジェクターを追加できます。17台以上追加すると、最初に追加したものから削除されます。接続できるプロジェクターの台数は最大4台までです。
- EMP NS Connection を終了して次回起動したときは、「登録プロジェクター」に追加したプロジェクターは消去されています。次回以降も同じプロジェクターを表示したい場合は、グループを作成して目的のプロジェクターを登録してください。 p.11

- 8** 接続先のプロジェクター名をクリックしてチェックマークを付け、「接続」ボタンをクリックします。

コンピュータとプロジェクターがネットワークを介して接続され、コンピュータの画面がプロジェクターから投写されます。



ポイント

- 他のコンピュータと接続中のプロジェクターを選択した場合は、先に接続していたコンピュータを切断し、後から接続したコンピュータの映像を投写します。
- Windows の場合、接続中のプロジェクターが割り込み禁止になっていることがあります。その場合でも、IP アドレスを指定すると優先的に接続されます。
- 複数のプロジェクターを選択すると、1台のコンピュータの映像を複数のプロジェクターで投写できます。1台のコンピュータの映像を同時に投写できるプロジェクターの台数は、最大4台までです。
- 接続後に、接続するプロジェクターを追加することはできません。

グループを作成して接続

頻繁にネットワーク経由で接続するプロジェクターをグループにして登録できます。EMP NS Connection では最大 16 台までのプロジェクターを1つのグループに登録できます。

例えば、支店ごとにネットワーク接続したプロジェクターがある環境で、特定のエリアにある支店のプロジェクターに投写したい場合は、エリア内の支店のプロジェクターを1つのグループに登録しておきます。一度グループに登録すれば、接続時にグループを指定するだけで目的の支店のプロジェクターと接続できるため、接続のたびにプロジェクターを1つずつ検索する手間を省けます。

グループ情報はファイルへの書き出し(エクスポート)と読み込み(インポート)ができます。ネットワーク管理者が作成しエクスポートしたグループから、必要に応じて接続したいグループをインポートすれば、簡単に目的のプロジェクターと接続できます。

■ グループの作成

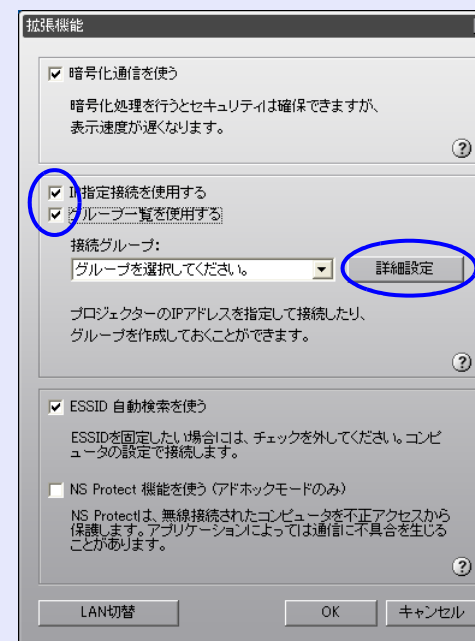
次の手順でグループを作成します。

操作

- 1 「IPアドレスを指定して接続」の手順1～3を実行し、EMP NS Connectionの拡張機能画面を表示します。

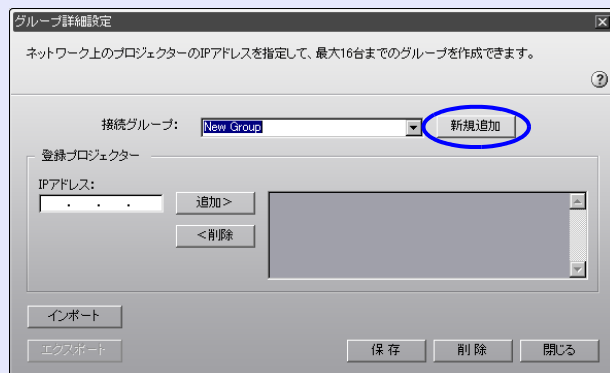
☞ p.8

- 2 「IP指定接続を使用する」と「グループ一覧を使用する」をクリックしてチェックマークを付け、「詳細設定」ボタンをクリックします。



3 グループ詳細設定画面が表示されます。グループを新規作成する場合は「新規追加」ボタンをクリックします。

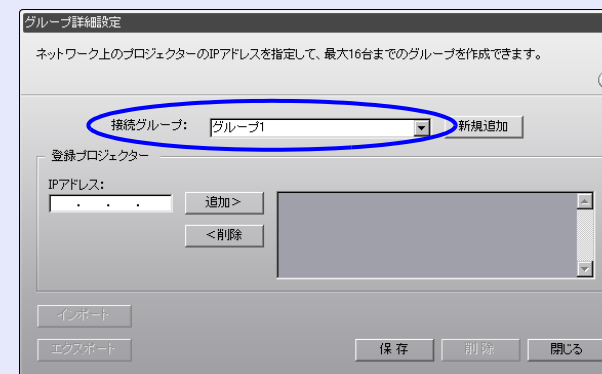
「接続グループ」に「New Group」(Windows)または「新規グループ」(Macintosh)と表示され、「IP アドレス」と登録プロジェクターの一覧が消去されます。



ポイント

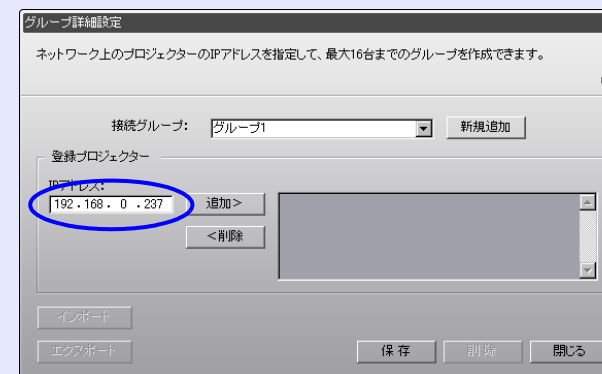
- 既存のグループに登録されているプロジェクターを変更する場合は、「接続グループ」でグループ名を選択し、手順5に進みます。
- グループ作成中または編集時に「新規追加」ボタンをクリックすると、「編集中のグループが登録されていません。登録しますか？」(Windows)、または「グループの変更内容を保存しますか？」(Macintosh)というメッセージが表示されます。「はい」ボタンをクリックすると作業中のグループが保存されます。「いいえ」ボタンをクリックすると作業中のグループは保存されずに破棄されます。

4 「接続グループ」にグループ名を入力します。



5 「IP アドレス」に登録したいプロジェクターの IP アドレスを入力し、「追加>」ボタンをクリックします。

アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。



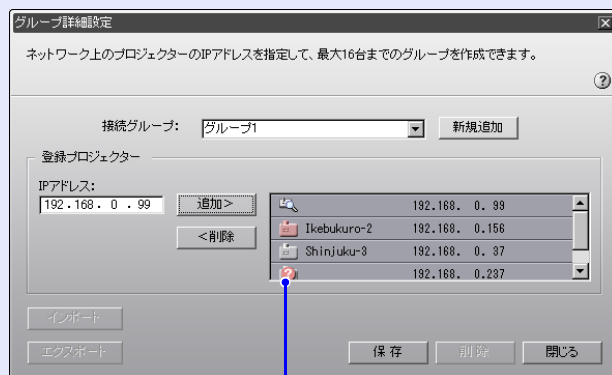
ポイント

「0.0.0.0」「127.x.x.x」「224.0.0.0 ～ 255.255.255.255」は使用できません (xは0～255の数字)。



- 6** IPアドレスが登録プロジェクター一覧に追加され、検索中であることを示すアイコンが表示されます。プロジェクターが見つかると、一覧にプロジェクター名が表示されます。さらにプロジェクターを登録したい場合は、手順5を繰り返します。

登録したプロジェクターは、一覧に追加されていきます。



アイコンの色と形で状態を示しています。

: 未接続

: 他のコンピュータと接続中

: 現在検索中

: 検索したが見つからなかったもの



ポイント

- 1 グループに最大 16 台までプロジェクターを追加できます。実際に接続できるプロジェクターの台数は最大4台までです。
- 追加したプロジェクターを一覧から削除したい場合は、削除したいプロジェクターを選択して「<削除」ボタンをクリックします。

- 7** 登録したいプロジェクターをすべて一覧に追加したら、「保存」ボタンをクリックします。「グループを保存します。よろしいですか？」というメッセージが表示されるので、「はい」ボタンをクリックします。

グループが保存されます。

メッセージ画面で「いいえ」ボタンをクリックすると、グループは保存されません。



ポイント

既存のグループを編集して保存する場合や、保存するグループと同じ名前がすでに「接続グループ」にあった場合は、「同一名称のグループが登録されています。上書きしますか？」(Windows)、または「内容を更新してよろしいですか？」(Macintosh)というメッセージが表示されます。「はい」ボタンをクリックすると上書きします。別名で保存したい場合は、「いいえ」ボタンをクリックして、グループ詳細設定画面の「接続グループ」でグループ名を入力して「保存」ボタンをクリックします。

- 8** 「閉じる」ボタンをクリックします。

グループ詳細設定画面を閉じ、拡張機能画面に戻ります。



ポイント

グループを削除したい場合は、グループ設定画面の「接続グループ」で削除したいグループを選択し、「削除」ボタンをクリックします。

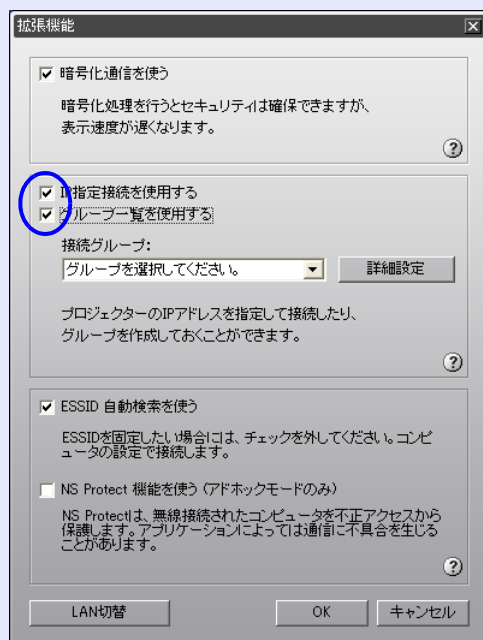
■ グループを使用して接続

次の手順で、グループに登録したプロジェクターに接続します。
「グループの作成」でグループを作成し、引き続きこの手順を実行する場合は、手順3から始めてください。

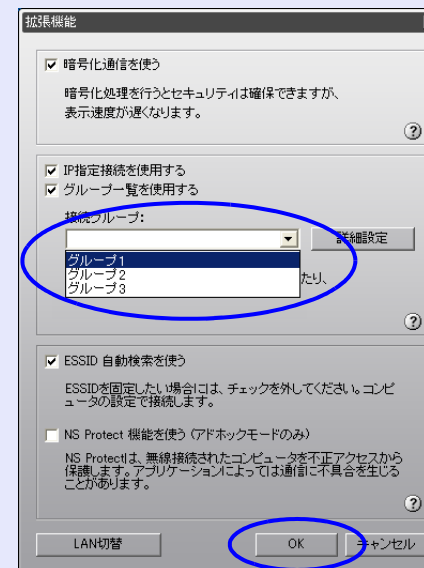
操作

1 「IPアドレスを指定して接続」の手順1～3を実行し、EMP NS Connectionの拡張機能画面を表示します。☞ p.8

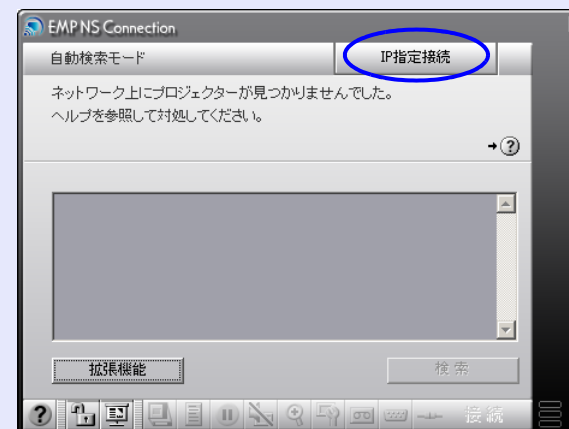
2 「IP指定接続を使用する」と「グループ一覧を使用する」をクリックしてチェックマークを付けます。



3 「接続グループ」で接続したいグループを選択し、「OK」ボタンをクリックします。

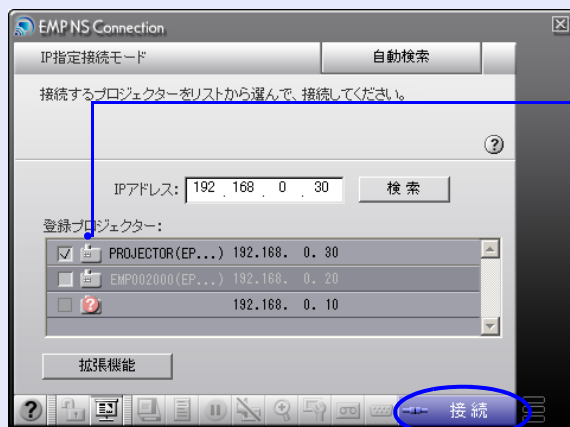


4 以下の画面が表示された場合は、画面の右上に表示されている「IP指定接続」をクリックします。
画面の左上に「IP指定接続モード」と表示されている場合は、何もせずに手順5に進みます。



- 5** グループに登録されているプロジェクターが「登録プロジェクター」に表示されます。接続先のプロジェクター名をクリックしてチェックマークを付け、「接続」ボタンをクリックします。

プロジェクター名は、プロジェクターの EasyMP 待機画面に表示されています。



アイコンの色と形で状態を示しています。

- 未接続
- 他のコンピュータと接続中
- 現在検索中
- 検索したが見つからなかったもの



ポイント

- 他のコンピュータと接続中のプロジェクターを選択した場合は、先に接続していたコンピュータを自動的に切断し、後から接続したコンピュータの映像を投写します。
- 複数のプロジェクターを選択すると、1台のコンピュータの映像を複数のプロジェクターで投写できます。1台のコンピュータの映像を同時に投写できるプロジェクターの台数は、最大4台までです。
- 接続後に、接続するプロジェクターを追加することはできません。

コンピュータとプロジェクターがネットワークを介して接続され、コンピュータの画面がプロジェクターから投写されます。

■ グループのエクスポート(書出し)

次の手順でグループをエクスポートします。



ポイント

- 「接続グループ」のリストにあるすべてのグループをエクスポートします。特定のグループのみをエクスポートすることはできません。
- グループをエクスポートする前に、最低1つはグループを作成して保存しておいてください。☞ p.11
- グループ作成中または編集時は、エクスポートできません。

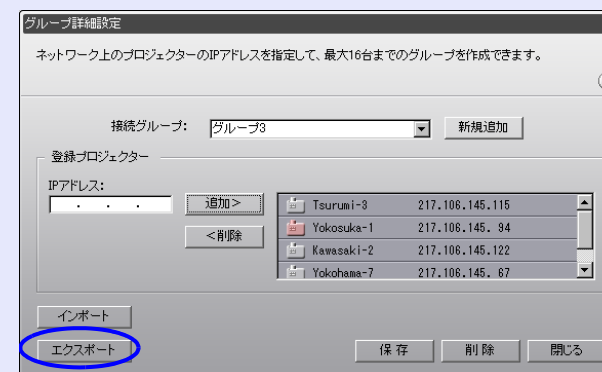
操作

1

「グループの作成」の手順1,2を実行し、グループ詳細設定画面を表示します。☞ p.11

2

「エクスポート」(Windows)、または「書出し」(Macintosh)ボタンをクリックします。



- 3** 表示された画面で、エクスポート先のフォルダを選択してファイル名を指定し、「保存」ボタンをクリックします。
指定したファイル名でグループがエクスポートされます。



ポイント

Windowsの場合

指定できるファイルの拡張子は「.ini」のみです。

Macintoshの場合

指定できるファイルの拡張子は「.prgp」のみです。

■ グループのインポート(読み込み)

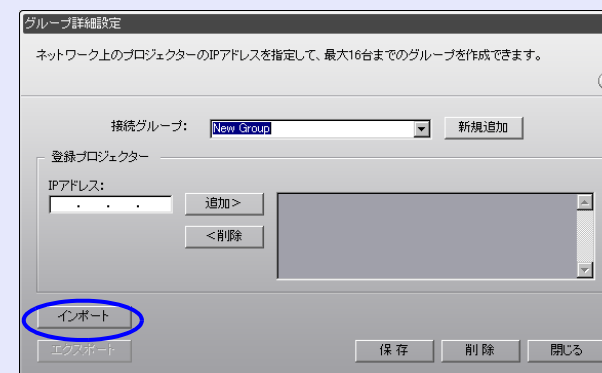


ポイント

グループ作成中または編集時は、インポートできません。

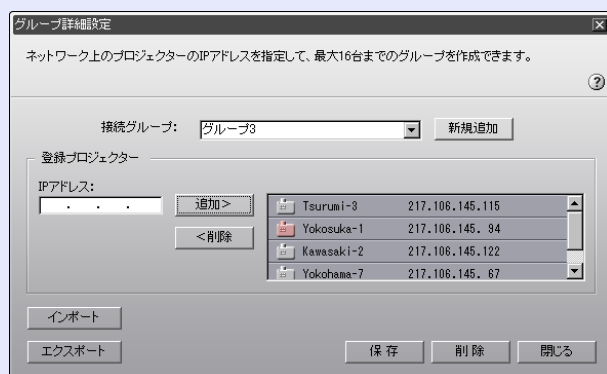
操作

- 1 「グループの作成」の手順1,2を実行し、グループ詳細設定画面を表示します。👉 p.11
- 2 「インポート」(Windows)、または「読み込み」(Macintosh)ボタンをクリックします。



3 表示された画面で、インポートするファイルを選択し、「開く」ボタンをクリックします。

グループがインポートされ、「接続グループ」のリストにインポートしたグループ名が追加されます。



ポイント

Windowsの場合

指定できるファイルの拡張子は「.ini」のみです。

Macintoshの場合

指定できるファイルの拡張子は「.prgp」のみです。

インポートしたグループに登録されたプロジェクターに接続したい場合は、「グループを使用して接続」の手順3～5を実行してください。👉 [p.14](#)



無線LANでは、電波を利用してデータのやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば簡単に通信ができるという利点があります。

その反面、電波は壁などの障害物を越えてどこへでも届くため、セキュリティの設定を行っていないと、特別なツールを使わなくても通信内容を傍受したり、ネットワークに侵入したりできます。

この問題を防ぐために、次のセキュリティ機能が準備されています。

●データの暗号化

データを暗号化して送信します。データを傍受されても、解読されません。

●接続の制限(認証)

ユーザー名やパスワードをあらかじめ登録し、登録されている無線LAN端末だけをネットワークに接続できるようにして、第三者がネットワークに接続することを防ぎます。

●ファイアウォール

使用しないポートを閉鎖することで、外部からの不正アクセスを防止します。

本機で利用できるセキュリティ機能は無線LANの接続モードによって異なります。

セキュリティの種類	簡単接続モードでのセキュリティ対策	アクセスポイントモードでのセキュリティ対策※2
暗号化	暗号化通信  p.19	WEP  , WPA  (TKIP )  p.20
認証	—	WPA(ホームモード)、 LEAP   p.20
ファイアウォール	NS Protect※1  p.19	—

※1 Windows XP搭載のコンピュータと接続して使う場合にのみ使用できます。

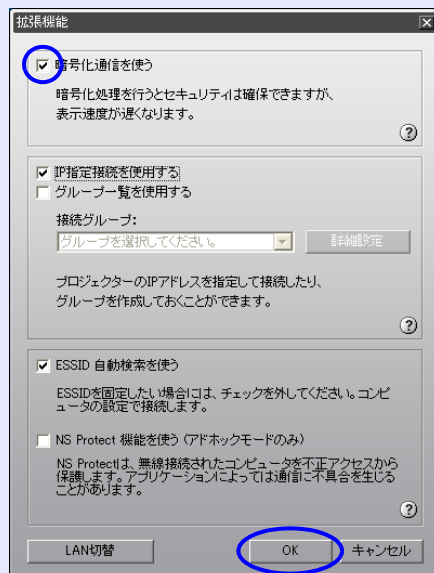
※2 接続先のアクセスポイントが同じ機能に対応している場合にのみ有効です。

簡単接続モードで暗号化通信したいとき

Network Screen 実行時に、プロジェクターに送信するコンピュータ映像のデータを暗号化することができます。データを暗号化すると、セキュリティが確保されますが、通信速度は遅くなります。以下の手順で、暗号化通信の設定をします。この設定は、1度行えば2回目以降は操作する必要はありません。

操作

- 1 「IPアドレスを指定して接続」の手順1～3を実行し、EMP NS Connectionの拡張機能画面を表示します。☞ p.8
- 2 「暗号化通信を使う」をクリックしてチェックマークを付け、「OK」ボタンをクリックします。

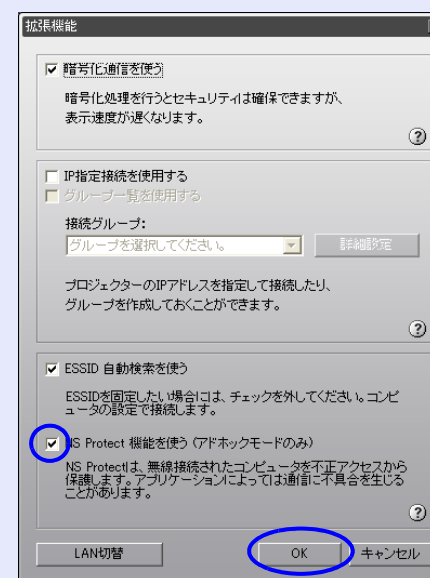


簡単接続モード時に不正アクセスを防ぐ(NS Protect)

NS Protectは、Network Screen用のパーソナルファイアウォールです。Network Screen の接続や制御に必要なポート以外のすべてのポートを閉鎖して、外部からの不正アクセスを防止します。NS Protect を利用するには、Windows XP 搭載のコンピュータと接続して管理者権限を持ったユーザーでログインします。管理者権限のないユーザーはこの機能が使えません。以下の手順でNS Protectを有効に設定します。この設定は、1度行えば2回目以降は操作する必要はありません。

操作

- 1 「IPアドレスを指定して接続」の手順1～3を実行し、EMP NS Connectionの拡張機能画面を表示します。☞ p.8
- 2 「NS Protect機能を使う(アドホックモードのみ)」にチェックマークを付け、「OK」ボタンをクリックします。



無線 LAN アクセスポイントモードで暗号化方式・認証方式を設定する

無線 LAN アクセスポイントモードで、Network Screen を行うときに使用する暗号化方式・認証方式を次の中から1つ選択できます。

● WEP

暗号キー(WEPキー)を使ってデータの暗号化を行います。
アクセスポイントとプロジェクター間で、暗号キーが一致しないと通信できない仕組みです。

● WPA

WEPの弱点を補強しセキュリティ強度を向上させた暗号化規格です。WPA には数種類の暗号化方式がありますが、本機では「[TKIP](#)」を使用します。TKIPはPSKを使い、一定間隔で自動的に暗号キーを更新するので、暗号キーが固定値である WEP に比べて暗号が解読されにくくなっています。

WPA は、ユーザー認証機能も備えています。WPA の認証方式には、認証サーバを使う方法と、認証サーバは使わずコンピュータとアクセスポイントの間で認証を行う方法があります。本機は、認証サーバを使わない認証方法に対応しています。

● LEAP

独自のユーザー認証機能と暗号化機能を備えたシスコシステムズ社の無線 LAN セキュリティ技術「[CCX](#)」で使用される認証方式のひとつです。

LEAP を使用するには、[認証サーバ](#) (RADIUS サーバ) が必要です。LEAPでは電子証明書は使わず、パスワードで認証を行います。



ポイント

- 各設定の作業は、参加するネットワークシステムの管理者の指示に従って行ってください。
- LEAPを使用する場合、認証サーバに合わせた設定をプロジェクターで行う必要があります。RADIUS サーバの設定については、ネットワークシステムの管理者にご確認ください。
- Webブラウザからプロジェクターの設定・制御用ブラウザページにアクセスして、そのページ上でネットワーク設定をすることができます(EasyWeb)。EasyWebでは、キーボードを使って入力できるため、リモコンでの入力が面倒なときに便利です。☞ [p.57](#)

操作

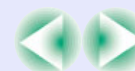
1

プロジェクターのカードスロットに無線LANカードをセットします。

2

プロジェクターをEasyMP待機画面にします。

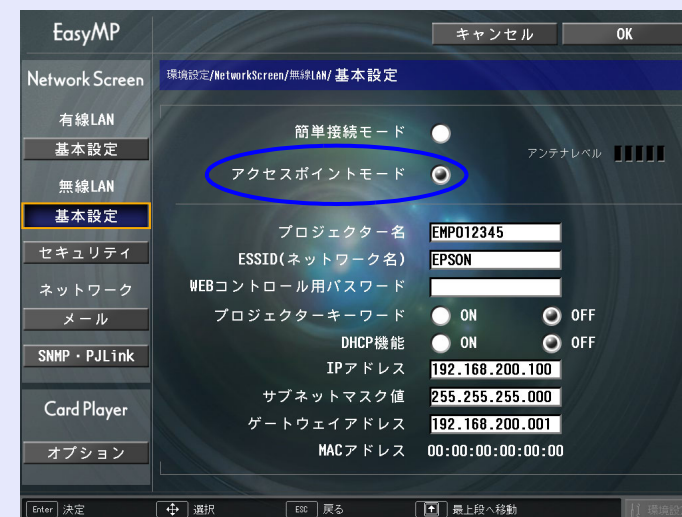
☞『EasyMP ネットワーク設定ガイド』「プロジェクターを接続待機状態にする」



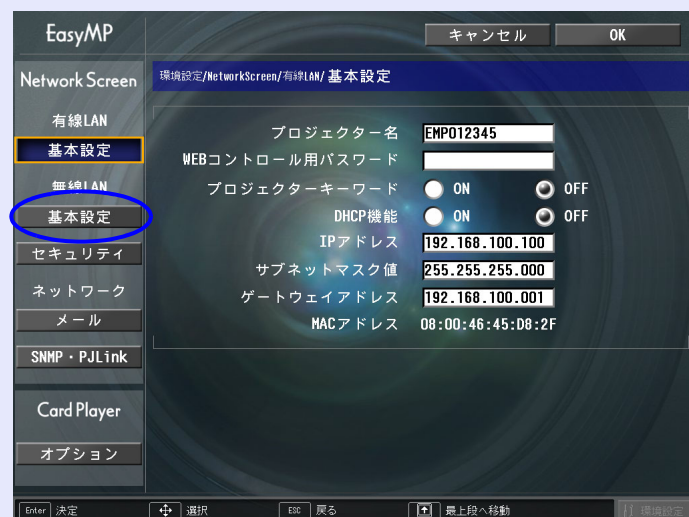
- 3 画面右下の「環境設定」ボタンが選択されていることを確認し、リモコンの[Enter]ボタンを押します。



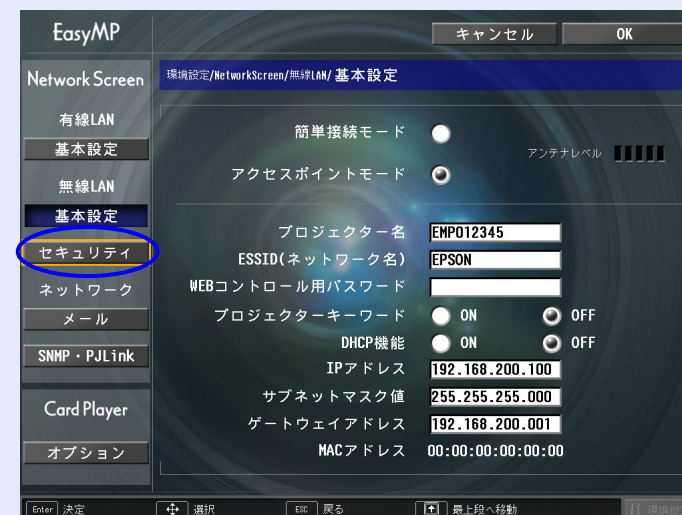
- 5 「アクセスポイントモード」にカーソルを移動し、リモコンの[Enter]ボタンを押します。
アクセスポイントモードが選択されます。



- 4 「無線LAN」-「基本設定」ボタンにカーソルを移動し、リモコンの[Enter]ボタンを押します。



- 6 「無線LAN」-「セキュリティ」ボタンにカーソルを移動し、リモコンの[Enter]ボタンを押します。



7 セキュリティの「WEP」、「WPA」、「LEAP」から、使用する暗号化方式・認証方式を選択します。



8 設定する項目にカーソルを移動し、各項目を設定します。 項目によっては文字や数値の入力が必要な場合があります。文字や数値の入力方法は「文字や数値の入力方法」(p.23)をご覧ください。

WEP

WEP暗号	WEP暗号化の暗号方式を設定します。 「128bit」:128(104)bit暗号化を使用する 「64bit」:64(40)bit暗号化を使用する
入力方式	WEP暗号キーの入力方式を設定します。 「HEX」:HEX(16進)入力 「ASCII」:テキスト入力 テキストによるWEP暗号設定の方法は、アクセスポイントにより異なります。プロジェクターが参加するネットワークの管理者に確認し、まず「ASCII」に設定してみてください。
キーID	WEP暗号IDキーを「1」、「2」、「3」、「4」のいずれかから選択します。
暗号キー	WEP暗号に使用するキーを入力します。プロジェクターが参加するネットワークの管理者の指示に従って、キーを半角文字で入力します。「WEP暗号」と「入力方式」の設定により、入力できる文字種・数が異なります。 下記でそれぞれ規制している文字数に満たなかった場合と、文字数を超える部分は暗号化されません。 「128bit」-「HEX」の場合:0~9とA~F、26文字まで 「64bit」-「HEX」の場合:0~9とA~F、10文字まで 「128bit」-「ASCII」の場合:英数字、13文字まで 「64bit」-「ASCII」の場合:英数字、5文字まで

WPA

PSK	PreSharedKey(暗号キー)を半角英数字で入力します。8文字以上、最大63文字まで入力できます。ただし、16進数の64桁は入力できません。 PreSharedKeyを入力し、[Enter]ボタンで確定すると、設定値はアスタリスク(*)で表示されます。 EasyMPの環境設定画面では32文字を超える入力是不可能です。EasyWebから設定すると、32文字を超える入力が可能です。🖱️ p.57
-----	---

※入力内容を変更するには、「クリア」ボタンを選択してリモコンの[Enter]ボタンを押し、入力内容を消去してから再度入力します。

LEAP

ユーザ名	認証に使用するユーザ名を半角英数字で入力します(スペースは使用できません)。最大64文字まで入力できます。 EasyMPの環境設定画面では32文字を超える入力是不可能です。EasyWebから設定すると、32文字を超える入力が可能です。🖱️ p.57
パスワード	認証に使用するパスワードを半角英数字で入力します。最大64文字まで入力できます。 パスワードを入力し、[Enter]ボタンで確定すると、パスワードはアスタリスク(*)で表示されます。 EasyMPの環境設定画面では32文字を超える入力是不可能です。EasyWebから設定すると、32文字を超える入力が可能です。🖱️ p.57

※入力内容を変更するには、「クリア」ボタンを選択してリモコンの[Enter]ボタンを押し、入力内容を消去してから再度入力します。

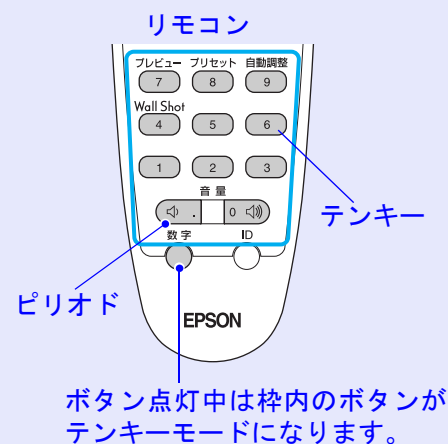
9 リモコンの[+]ボタンを押してカーソルを「OK」ボタンに移動し、[Enter]ボタンを押します。

EasyMP待機画面に戻ります。

文字や数値の入力方法

文字や数値を入力するには、次の手順で行います。

1. 入力する項目にカーソルを移動して、リモコンの[Enter]ボタンを押します。カーソルが緑色になり、入力モードになります。
 2. 数字のみを入力する場合は、リモコンの[数字]ボタンを押します。[数字]ボタンが点灯し下図のボタンがテンキーモードになり数字が入力できるようになります。また、文字が入力できる項目では、[⏏]ボタンを押すとピリオド(.)を入力できます。
- 文字を入力する場合は、リモコンの[○]ボタンを上傾けると、A～Z→0～9→記号→a～z→スペースの順で切り替わります。下に傾けると、逆順で切り替わります。[○]を、傾けたままにするとキーリピートが働き、素早く目的の文字を選択できます。



3. 2文字以上の文字や数字を入力する場合は、リモコンの[○]ボタンを右に傾けます。1番目の文字や数字が決定し、2番目の入力位置へカーソルが移動します。
4. 文字や数字をすべて入力したら、リモコンの[Enter]ボタンを押して入力を確定します。カーソルが黄色に変わります。

ESSID自動検索を無効にする

Windows 2000/XP を使ったコンピュータでESSIDを固定したい場合は、ESSID自動検索を無効にします。この設定は、1度行えば2回目以降は操作する必要はありません。

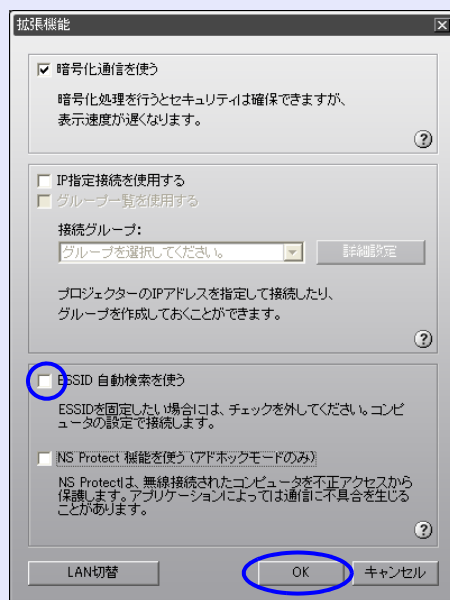


ポイント

ESSID自動検索を無効にした場合は、コンピュータ側のESSIDを手動で設定する必要があります。

操作

- 1 「IPアドレスを指定して接続」の手順1～3を実行し、EMP NS Connectionの拡張機能画面を表示します。👉 p.8
- 2 「ESSID自動検索を使う」をクリックしてチェックマークを外し、「OK」ボタンをクリックします。



プレゼンテーションの準備 (EMP SlideMaker2の使い方)

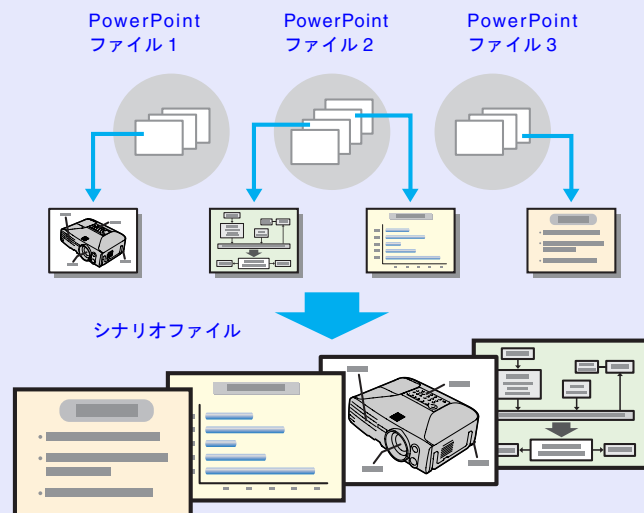
ここでは、シナリオの作成、転送方法について説明しています。

コンピュータレスでプレゼンテーション するときの流れ	26
シナリオに組み込めるファイル	27
シナリオの作成	28
・シナリオ作成の流れ	28
・シナリオのプロパティを設定する	28
・PowerPoint ファイルをシナリオに組み込む	30
・PowerPoint ファイル内の全スライドを組み込む	31
・サムネイルを確認しながら必要なスライドだけを 組み込む	32
・画像や動画ファイルをシナリオに組み込む	32
・シナリオを編集する	34
・ファイルやスライドを追加する	34
・削除する	34
・順番を入れ替える	34

シナリオの転送	35
こんなときには	37
・シナリオの簡易作成	37
・コンピュータ上でシナリオの投写状態を 確認する	38
・アニメーションの設定を行う	39

PowerPoint ファイルや画像・動画ファイルを組み合わせ、投写する順番に並べて1つのファイルとして保存したものを、本書では「シナリオ」と呼びます。シナリオはEMP SlideMaker2で作成します。

EMP SlideMaker2を使うと、元となるファイルを編集せずに、必要な部分を抽出、並び替えて、簡単に、そして効率的にプレゼンテーション資料を準備できます。



作成したシナリオは、コンピュータにセットしたメモ리카ードまたはUSB ストレージに転送します。そのメモ리카ードまたはUSB ストレージをプロジェクターにセット(または接続)して、プロジェクターに搭載のCardPlayerでシナリオを投写します。

USB ストレージの接続 ●『取扱説明書』「USB 機器(デジタルカメラ、ハードディスク、メモリ)の接続」



ポイント

EMP SlideMaker2はコンピュータにインストールして使います。
EMP SlideMaker2のインストール方法 ●『EasyMP ネットワーク設定ガイド』「コンピュータにEasyMP Softwareをインストールする」

EMP SlideMaker2

シナリオの作成 ● p.28
(シナリオの簡易作成 ● p.37)

シナリオの転送 ● p.35

コンピュータでの作業

CardPlayer

シナリオの投写 ● p.48

プロジェクターでの作業

シナリオとして、1つのファイルに組み合わせることができるファイルは次のとおりです。

種類	ファイルタイプ (拡張子)	備考
PowerPoint	.ppt	Microsoft PowerPoint 2000/2002/2003
画像	.bmp	
	.jpg	バージョンを問いません。ただし、CMYKカラーモード形式、プログレッシブ形式のものは再生できません。
動画	.mpg	MPEG2-PS 再生可能なサイズが最大720×576までで、DVDと同じ(シーケンスヘッダがGOPごとに配置されている)形式でないと再生できません。再生できる音声形式は、MPEG1レイヤー2です。リニアPCMとAC-3は再生できません。
音声	.wav	PCM、22.05/44.1/48.0kHz、8/16ビット



ポイント

- PowerPointの「スライドショー」メニューで設定した画面切り替えの効果とアニメーションのうち、シナリオにも反映されるものは次のとおりです。

• スライドイン	• ブラインド	• ボックス
• チェッカーワイプ	• クロール	• ディゾルブ
• ピーク	• ランダムストライプ	• スパイラル
• スプリット	• ストレッチ	• ストリップ
• ターン	• ワイプ	• ズーム

 上記以外の画面切り替えの効果とアニメーションは「カット」に置き換えられます。
- 左記の表にある画像・動画ファイルをファイル単独で再生したい場合は、シナリオにする必要はありません。メモ리카ードやUSBストレージにファイルをそのまま保存したあとで、プロジェクターにセットすればCardPlayer機能で直接再生して投写できます。
[p.52](#)
- 動画を再生する場合、使用するメモ리카ードは、コンパクトフラッシュカードまたはカード型のハードディスクドライブを推奨します。上記以外のメモ리카ードを使用すると、正しく再生できないことがあります。また、アクセス速度が遅いコンパクトフラッシュカードを使用すると、正しく再生されなかったり、音声音が飛びしたり音がなくなったりすることがあります。

本機以外のプロジェクターの同梱ソフトで作成したシナリオについて、本機のEMP SlideMaker2で開くことができるものとできないものは次表のとおりです。

プロジェクター	ソフト	本機のEMP SlideMaker2で開く
EMP-7950/7850 EMP-765/755/745/737 ELP-735	EMP SlideMaker2	○
ELP-8150/8150NL	EMP Scenario	×
ELP-715/505	EMP SlideMaker	×

シナリオを作成する前に、次の点を確認してください。

- PowerPoint、画像・動画などの組み合わせるデータは、あらかじめ作成しておきます。
- 前述の「シナリオに組み込めるファイル」に記載されているファイル以外は使用できません。☞ p.27

■ シナリオ作成の流れ

シナリオの作成は、次の流れで行います。

EMP SlideMaker2を起動し、シナリオのプロパティ（シナリオ名や背景色、画質など）を設定します。
☞ p.28



シナリオで使うファイルをシナリオに組み込みます。
☞ 「PowerPointファイルをシナリオに組み込む」p.30
☞ 「画像や動画ファイルをシナリオに組み込む」p.32



組み込んだファイルの順番を入れ換えるなどして、シナリオを完成させます。☞ p.34



ポイント

シナリオが完成したら、「シナリオ転送」を行います。☞ p.35

シナリオのプロパティを設定する

操作

- 1 コンピュータでWindowsを起動し、「スタート」－「プログラム」(または「すべてのプログラム」)－「EPSON Projector」－「EMP SlideMaker2」の順に選択します。EMP SlideMaker2 が起動し、シナリオのプロパティが表示されます。

- 2 次の表を参照して各項目を入力し、「OK」ボタンをクリックします。



シナリオ名	作成するシナリオのファイル名を入力します。必ず入力してください。アルファベットの大字と数字を8文字まで入力できます。次項の作業用フォルダのディレクトリ名と合わせて127文字以内になるようにしてください。
作業用フォルダ	シナリオ作成時の作業用フォルダをどこに作成するかを指定します。なお、作業用フォルダ名はシナリオ名と同名になります。

BGM を設定する	シナリオ再生中にBGMを流したいときにチェックマークを付けます。チェックマークを付けると、音声ファイル(WAVE形式)を選択する画面が表示されます。この画面で、BGMとして使用するファイルを選択します。 音声ファイル選択後、右側の「▶」ボタンをクリックすると、選択した音声ファイルが再生されます。「■」ボタンをクリックすると再生を停止します。
背景色	シナリオ中の画像データの背景を選択します。
画質	EMP SlideMaker2ではPowerPointファイルの各スライドがJPEGファイルに変換されて保存されます。この項目では、JPEGファイルに変換されときの画質を選択します。 「最高画質」、「高画質」、「標準」の順に高画質で保存されます。「標準」に設定した場合は、他に比べて画質が粗くなります。「最高画質」、「高画質」を選択することをお勧めします。 なお、シナリオに直接JPEGファイルを組み込んだ場合は、この項目の設定にかかわらず、元のJPEGファイルの画質がそのまま適用されます。

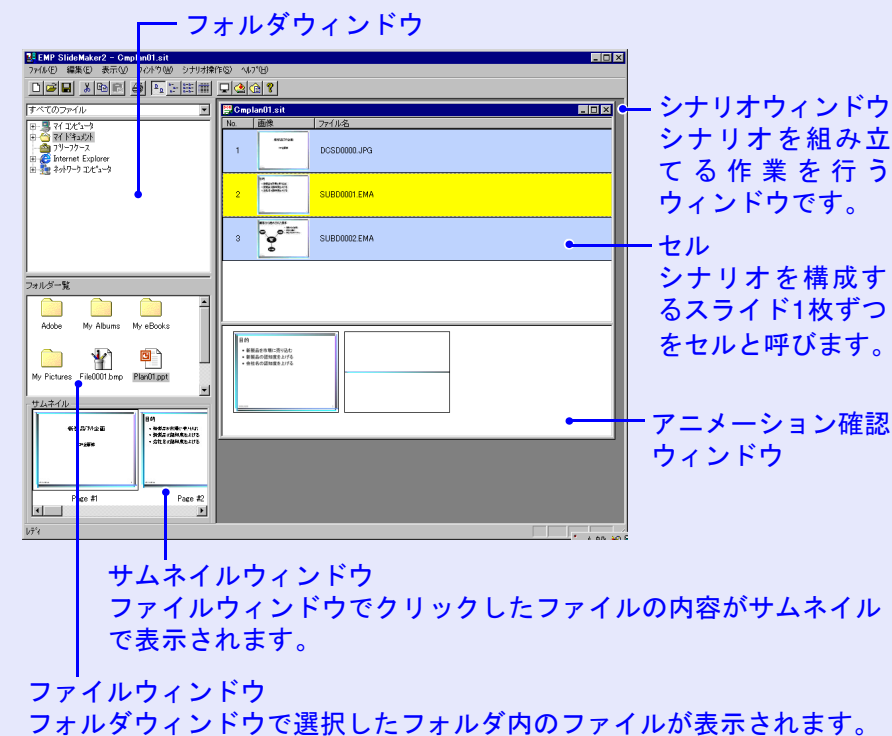


ポイント

設定した内容は、EMP SlideMaker2の「ファイル」-「プロパティ」で変更できます。

3

次の画面が表示されます。



ポイント

EMP SlideMaker2の各メニューの機能については、EMP SlideMaker2のヘルプをご覧ください。



PowerPointファイルをシナリオに組み込む

PowerPointファイルは、次の2通りの方法でシナリオに組み込むことができます。

- PowerPointファイル内の全スライドを組み込む  p.31
- サムネイルを確認しながら必要なスライドだけを組み込む  p.32

PowerPointファイル内の全スライドを組み込んだ場合、シナリオに組み込んだあともPowerPointで設定したアニメーションが保持され、CardPlayerで投写する際にアニメーションが有効に働きます。必要なスライドだけを組み込んだ場合は、PowerPointで設定したアニメーションはすべて無効となります。

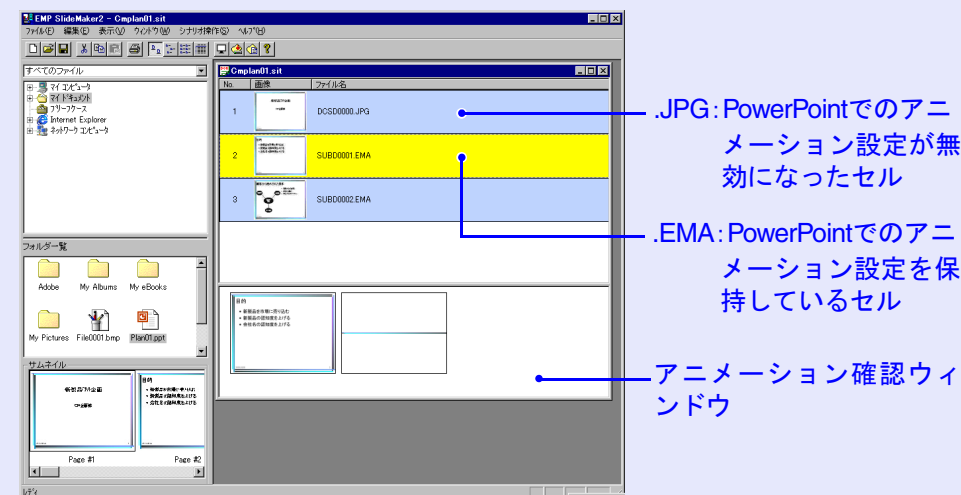


ポイント

PowerPoint内に組み込まれた動画ファイルは、シナリオ上では再生できません。

アニメーションを保持しているスライドは、シナリオウィンドウのセルに「.EMA」と表示されます。「.EMA」と表示されたセルをクリックすると、アニメーションの各動作がアニメーション確認ウィンドウに表示されます。

アニメーションを保持していないスライドはセルに「.JPG」と表示されます。



ポイント

- お使いのコンピュータにPowerPointがインストールされていない場合は、サムネイルを表示することはできません。
- アニメーションは、EMP SlideMaker2のプロパティ画面でも設定できますが、あらかじめPowerPointで設定したアニメーションの方が、シナリオ再生時の動作がなめらかです。PowerPointのスライドにアニメーションを設定したい場合は、PowerPointで設定することをお勧めします。画像にアニメーションを設定したい場合や、設定したアニメーションを保持せずに、シナリオに組み込んだスライドにアニメーションを設定したい場合は、EMP SlideMaker2のプロパティ画面で設定してください。  p.39

- PowerPointで設定できるアニメーションで、以下のアニメーションはシナリオにも反映されます。

- | | | |
|------------|-------------|---------|
| • スライドイン | • ブラインド | • ボックス |
| • チェッカーワイプ | • クロール | • ディゾルブ |
| • ピーク | • ランダムストライプ | • スパイラル |
| • スプリット | • ストレッチ | • ストリップ |
| • ターン | • ワイプ | • ズーム |

上記以外のアニメーションは「カット」に置き換えられます。

■ PowerPoint ファイル内の全スライドを組み込む

PowerPoint ファイル内の全スライドをまとめてシナリオに組み込むには、次の手順で行います。この方法で組み込むと、シナリオに組み込んだあとも、PowerPoint で設定したアニメーションがそのまま有効になります。

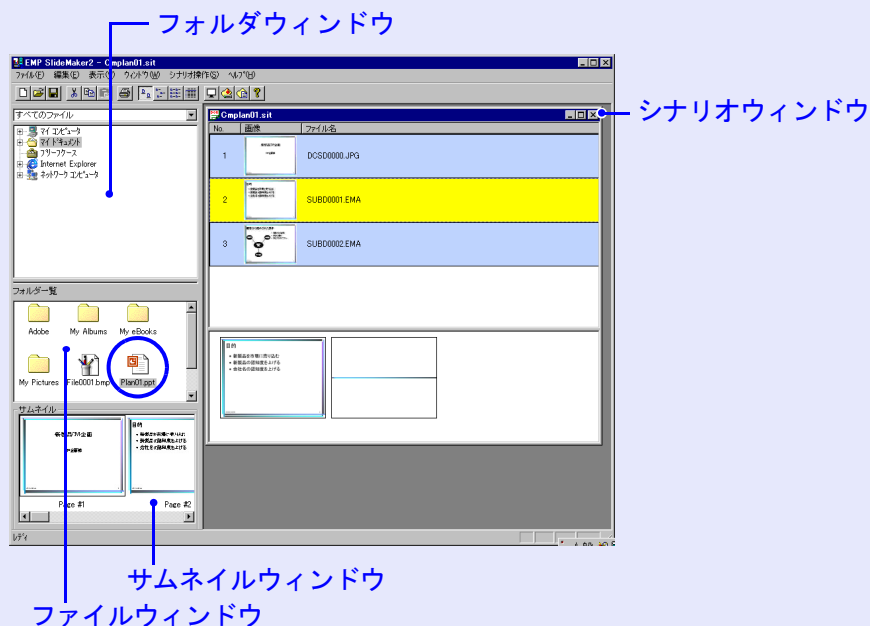


ポイント

1つのPowerPointのファイルをそのまま1つのシナリオにする場合は、シナリオの簡易作成で行うこともできます。  p.37

操作

- 1 ファイルウィンドウで目的のPowerPointファイルアイコンをダブルクリックします。



- 2 メッセージを確認し、「OK」ボタンをクリックします。

自動的にスライドショーが実行されます。
スライドショーの途中でキーボードの[Esc]キーを押すと、スライドショーが中止されます。その場合、実行済みのスライドだけがシナリオに組み込まれます。



ポイント

PowerPointファイルの容量が大きい場合は、シナリオの組み込みが終了するまでに時間がかかります。

- 3 スライドショーが終了したら、画面をクリックします。

ファイル内の全スライドがシナリオに組み込まれ、シナリオウィンドウに表示されます。

■ サムネイルを確認しながら必要なスライドだけを組み込む

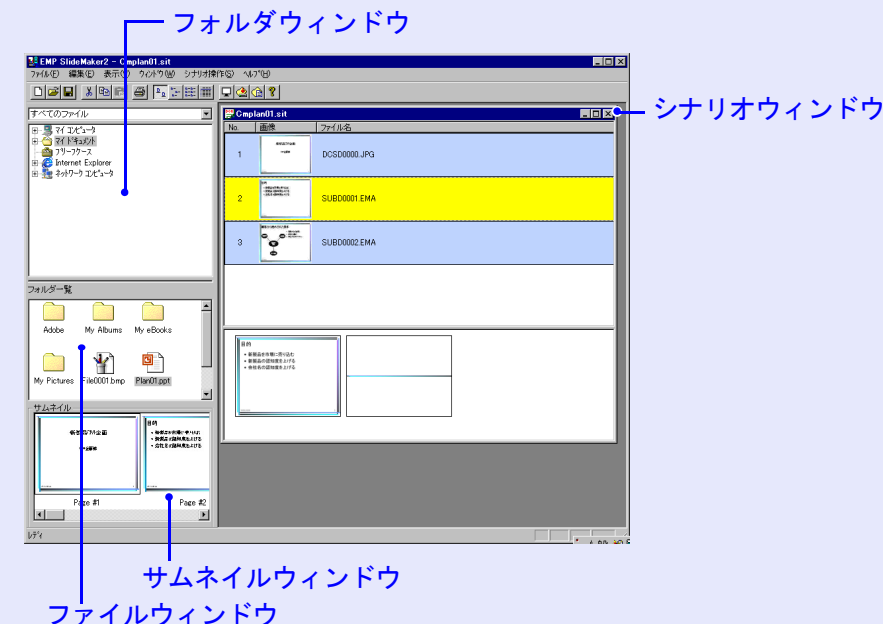
PowerPoint ファイルから必要なスライドだけを選んでシナリオにするには、次の手順で組み込みます。ただし、この方法で組み込むと、PowerPoint で設定したアニメーションが無効になります。

操作

- 1 ファイルウィンドウで目的のPowerPointファイルアイコンをクリックします。
- 2 シナリオに組み込むサムネイルをダブルクリックします。
目的のスライドがシナリオウィンドウに表示されます。
- 3 複数のスライドを選択して一度に組み込むには、サムネイルウィンドウで、追加したいスライドを順次クリックしていきます。
クリックしたスライドはすべて選択されます。
選択したスライドをもう1度クリックすると、選択が解除されます。
- 4 追加したいスライドをすべて選択したら、選択したスライドの1つをシナリオウィンドウの追加したい場所にドラッグ&ドロップします。
選択したスライドがすべてシナリオに追加されます。

画像や動画ファイルをシナリオに組み込む

画像ファイルや動画ファイルをシナリオに組み込みます。



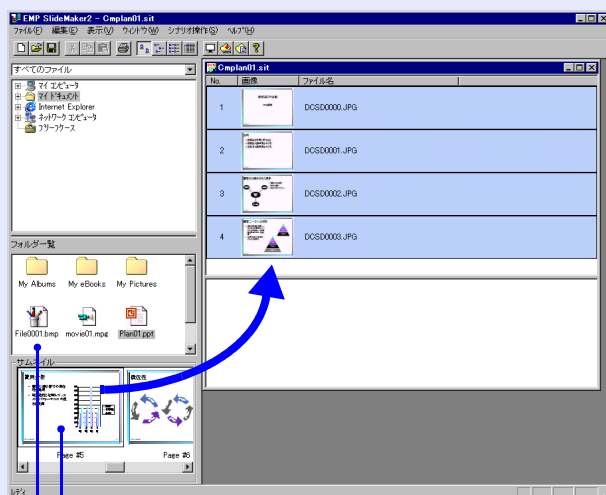
操作

- 1 フォルダウィンドウで、目的のフォルダをクリックします。
ファイルウィンドウにフォルダ内のファイルが一覧で表示されます。
- 2 ファイルウィンドウでファイルアイコンをクリックします。
画像ファイルの内容がサムネイルウィンドウに表示されます。
動画ファイルの場合は、アイコンがサムネイルウィンドウに表示されます。

3 ファイルウィンドウで、目的のファイルアイコンをダブルクリックします。

選択したファイルがシナリオウィンドウ内に表示され、シナリオに組み込まれます。

4 ファイルを追加するには、目的のファイルをシナリオウィンドウにドラッグ&ドロップします。



目的のファイルやスライドをドラッグ&ドロップでシナリオウィンドウ内に追加することができます。

5 複数のファイルを追加するには、キーボードの[Ctrl]キーを押したまま、追加したいファイルアイコンを順次クリックします。追加したいファイルをすべて選択したら、選択したファイルの1つをシナリオウィンドウの追加したい場所にドラッグ&ドロップします。

選択したファイルがすべてシナリオに追加されます。



ポイント

ファイルの選択を解除するには、アイコン外の白い領域をクリックします。



シナリオを編集する

スライドやファイルを追加、削除したり順番を入れ替えたりしてシナリオを編集できます。

シナリオウィンドウに表示されている内容は、プロジェクターの CardPlayer で投写したとき、上から順番に投写されます。

■ ファイルやスライドを追加する

操作

ファイルウィンドウに表示されているファイルや、サムネイルウィンドウに表示されている PowerPoint のスライドを、シナリオウィンドウの追加したい場所にドラッグ&ドロップします。

■ 削除する

操作

削除したいセルでマウスを右クリックし、表示されたメニュー（ショートカットメニュー）で「切り取り」を選択します。

■ 順番を入れ替える

操作

移動したいセルをシナリオウィンドウ内でドラッグ&ドロップして入れ替えます。

または、ショートカットメニューを表示し、「切り取り」を選択後、「貼り付け」を実行して入れ替えます。

作成したシナリオをプロジェクターで投写するには、EMP SlideMaker2の「シナリオ転送」でメモリカードやUSBストレージにシナリオを転送します。

転送先には、以下のいずれかを指定します。

- コンピュータのカードドライブにセットしているメモリカード
- コンピュータのUSB端子に接続しているハードディスクまたはUSBメモリ

シナリオをプロジェクター起動時に自動的に投写したり、繰り返して投写するように設定することもできます。自動的に投写する機能を「オートラン」といいます。



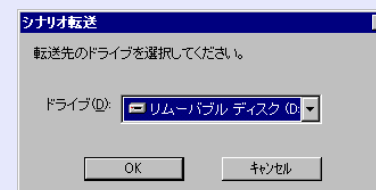
ポイント

- 「シナリオ転送」を実行すると、シナリオファイルが「シナリオ名.sit」という名前で転送先に保存されます。また、シナリオ名と同名のフォルダが作られ、各画面が画質の設定に応じた画像ファイルに変換され、そこに保存されます。
- 保存を行わずに「シナリオ転送」を実行した場合は、作業用フォルダ内にも「シナリオ名.sit」というファイルとシナリオ名と同名のフォルダが作られ、そこに各画面が画質の設定に応じた画像ファイルに変換され、保存されます。

操作

1 シナリオが完成したら、メモリカードまたはUSBストレージをコンピュータにセットして「シナリオ操作」→「シナリオ転送」を選択します。

2 転送先のドライブを指定するダイアログボックスが表示されます。メモリカードまたはUSBストレージがセットされているドライブを選択して「OK」ボタンをクリックします。



3 確認メッセージが表示されますので、「OK」ボタンをクリックします。

シナリオが選択したドライブに転送されます。

4 転送が終了すると、オートランの設定を行うか確認するメッセージが表示されます。オートランの設定をする場合は、「OK」ボタンをクリックして次の手順に進みます。設定をしない場合は、「キャンセル」ボタンをクリックすると終了します。



- 5 左側のシナリオファイルリストに、転送先ドライブ内のすべてのシナリオファイルが表示されます。



オートランを行う場合

プロジェクターの電源を入れたときに、シナリオを自動投写する場合は、シナリオファイルリストで目的のシナリオ名をクリックして、「>>」ボタンをクリックします。右側のオートランシナリオファイルリストにシナリオが表示され、オートランファイルとして設定されます。

シナリオを繰り返し投写する場合

「オートランシナリオファイルリスト」に登録したシナリオの投写終了後、自動的に最初から投写し直す場合は、「繰り返し実行」にチェックマークを付けます。



ポイント

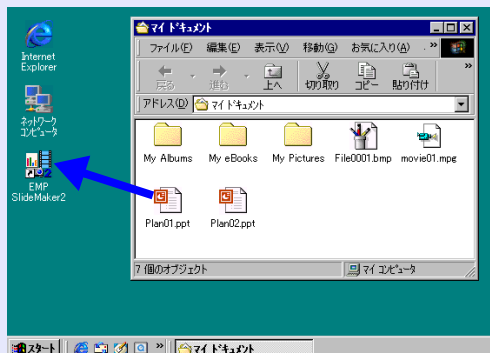
- オートランの設定は、「シナリオ操作」-「オートラン編集」を選択しても実行できます。
- オートランの設定はEasyMPのCardPlayerでは指定できません。
- オートランに設定したファイルが2つ以上ある場合は、オートランシナリオファイルリストの上から順に再生されます。

- 6 シナリオを転送したメモリカードまたはUSBストレージをプロジェクターにセットまたは接続してCardPlayerで投写します。☞ p.48



シナリオの簡易作成

PowerPoint の1つのファイルをそのままシナリオにする場合は、PowerPointファイルのアイコンを、デスクトップ上のEMP SlideMaker2のプログラムアイコン上へドラッグ&ドロップします。



自動的にスライドショーが実行され、シナリオが作成されます。スライドショーの途中でキーボードの[Esc]キーを押すと、スライドショーが中止されます。その場合、実行済みのスライドだけがシナリオに組み込まれます。



ポイント

- EMP SlideMaker2起動中はシナリオの簡易作成はできません。EMP SlideMaker2を終了してから実行してください。
- PowerPointファイルの容量が大きい場合は、シナリオの組み込みが終了するまでに時間がかかります。
- 作成されたシナリオには「Scnxxxx」(xxxxは数字)という名前が付きます。シナリオの画質は「標準」に設定されます。画質は、「ファイル」-「プロパティ」を選択して表示されるシナリオ設定ダイアログボックスで変更できます。画質についての詳細 [p.29](#)
- PowerPointのファイルを複数選択してEMP SlideMaker2のプログラムアイコンへドラッグ&ドロップした場合、マウスカーソルが指しているアイコンのファイルだけがシナリオになります。
- シナリオの簡易作成を実行した場合、PowerPointのファイルにあるすべてのスライドからシナリオを作成します。投写したくないスライドがある場合は、該当のセルを右クリックして「非表示」を選択します。
- PowerPointで設定できるアニメーションで、次のアニメーションはシナリオにも反映されます。

• スライドイン	• ブラインド	• ボックス
• チェッカーワイプ	• クロール	• ディゾルブ
• ピーク	• ランダムストライプ	• スパイラル
• スプリット	• ストレッチ	• ストリップ
• ターン	• ワイプ	• ズーム

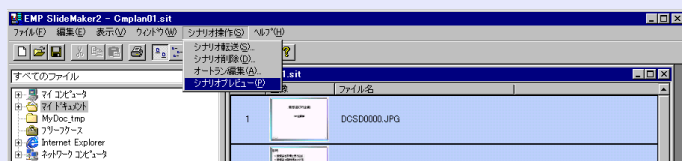
 上記以外のアニメーションは「カット」に置き換えられます。

コンピュータ上でシナリオの投写状態を確認する

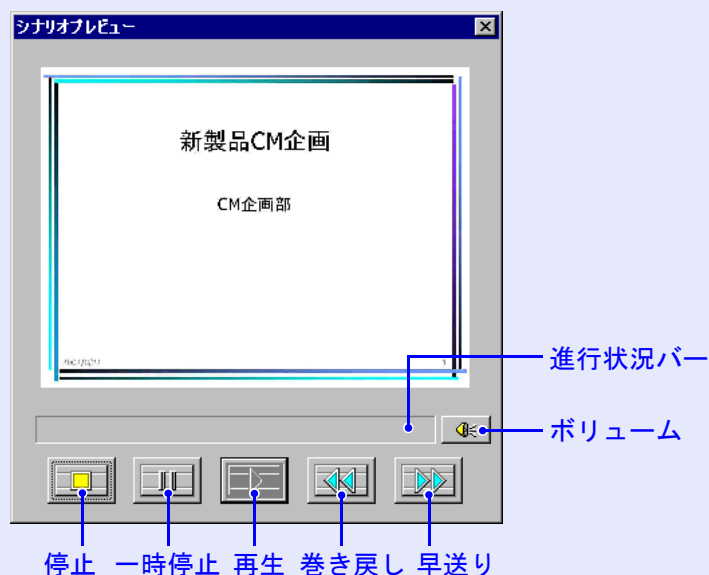
作成したシナリオが、プロジェクターの CardPlayer でどのように再生されるかを、コンピュータ上で確認できます。画像、アニメーション効果、BGMなどシナリオの構成要素をすべて再生します。

操作

- 1 EMP SlideMaker2で、確認したいシナリオを開きます。
- 2 「シナリオ操作」-「シナリオプレビュー」を選択します。



- 3 シナリオプレビュー画面が表示されます。



各ボタンの機能は次表のとおりです。

停止	再生を中止し、一番前のスライドに戻ります。
一時停止	シナリオ動作が「自動」に設定されているスライドを一時停止します。☞ p.40
再生	シナリオプレビューを開始します。また、停止または一時停止しているシナリオを再開します。シナリオ動作が「手動」に設定されている場合は、次のスライドを表示します。☞ p.40
巻き戻し	現在表示しているスライドの1つ前のスライドまたはアニメーション実行前の画面に戻ります。戻る際はアニメーション効果は実行されません。
早送り	現在表示しているスライドの1つ先のスライドまたはアニメーション実行後の画面に進みます。このときアニメーション効果は実行されません。
ボリューム	Volume Controlを起動します。BGMの音の大きさを調整できます。
進行状況バー	シナリオの進行状況をバーで表示します。開始時はバーの表示はなく、進行するにしたがって左から右にバーが伸びていきます。一番右までバーが達すると終了です。

- 4 確認し終わったら、画面右上の「」ボタンをクリックしてシナリオプレビュー画面を閉じます。

アニメーションの設定を行う

EMP SlideMaker2 では、PowerPoint のアニメーション効果と同様の効果をシナリオ内の各セルに設定できます。PowerPoint で設定したアニメーションを保持しているスライドは、分割されたコマごとに投写時間やアニメーションを設定して投写することができます。この場合は、アニメーション確認ウィンドウで目的のアニメーションを右クリックして「セルのプロパティ」をクリックします。



ポイント

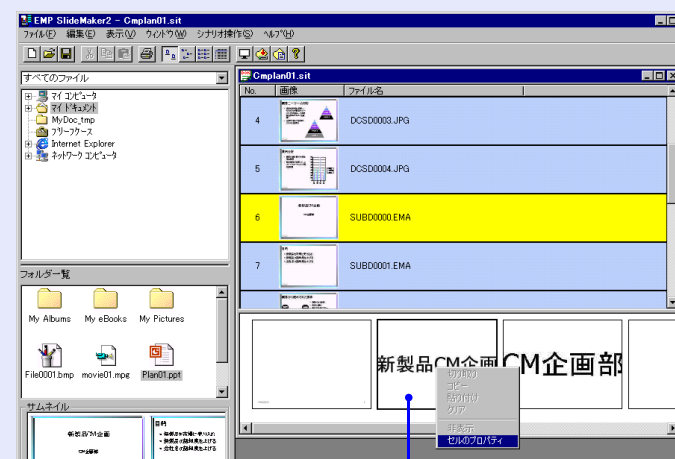
あらかじめ PowerPoint でアニメーションを設定したファイルをシナリオに組み込んだ方が、シナリオ再生時のアニメーションの動作がなめらかです。PowerPoint のスライドにアニメーションを設定したい場合は、PowerPoint で設定することをお勧めします。画像ファイルにアニメーションを設定したい場合や、設定したアニメーションを保持せずに、シナリオに組み込んだスライドにアニメーションを設定したい場合は、ここで説明している方法で設定します。

操作

1

目的のセル、またはアニメーションで右クリックし、「セルのプロパティ」を選択します。

複数のセル、またはアニメーションに同じ設定をする場合は、キーボードの[Shift]キー、または[Ctrl]キーを押したままクリックして複数のセルを選択してから、右クリックして「セルのプロパティ」を選択します。



アニメーション



- 2 プロパティ画面が表示されます。次の表を参照して項目を設定し、「OK」ボタンをクリックします。



シナリオ動作	「自動」を選択した場合は、切り替える時間を0秒から1800秒の間で設定できます。「手動」にした場合は、投写時にリモコンの[↓]または[↑]ボタンを押して切り替えます。
アニメーション効果	投写中に画面を切り替えるときの効果を指定できます。 選択したアニメーションによっては、「方向」を選択します。 効果の一例を次に示します。 スライドイン:指定した方向から画面を切り替えます。 ボックスワイプイン:内側から画面を切り替えます。



プレゼンテーションの実行 (CardPlayerの使い方)

ここでは、EMP SlideMaker2で転送したシナリオと、画像・動画ファイルをプロジェクターで投写する操作を説明します。

CardPlayerで投写できるファイル	42	画像・動画ファイルの投写	52
CardPlayerの使用方法	43	• 画像・動画を投写する	52
• CardPlayer の起動方法	43	• フォルダ内のすべての画像・動画ファイルを順番に 投写する(スライドショー)	53
• CardPlayer の終了方法	44	画像・動画ファイルの表示条件と操作モードを 設定する	54
• CardPlayer の基本操作	45		
• Easy メニューの操作方法(ガイドモード)	45		
• クイックモードでの操作方法	47		
• 画像を回転する	47		
シナリオの投写	48		
• シナリオの再生	48		
• プレゼンテーション中の操作	49		
• シナリオからスライドを選んで投写する	49		
• シナリオの編集	50		

CardPlayerで投写できるファイルは次のとおりです。

種類	ファイルタイプ (拡張子)	備考
シナリオ	.sit	シナリオ転送で作成されたシナリオファイルです。 シナリオ作成時にBGM設定した音声(.wav)も再生できます。 EMP-7950/7850/765/755/745/737、ELP-735/715/505に添付のEMP SlideMakerで作成したシナリオも投写できます。
画像	.bmp	24ビットカラーのもののみ投写できます。
	.gif	解像度が1024×768を超えるものは投写できません。
	.jpg	バージョンを問いません。ただし、CMYKカラーモード形式、プログレッシブ形式、解像度が2560×1920を超えるものは投写できません。
	.png	解像度が2560×1920を超えるものは投写できません。
動画	.mpg	MPEG2-PS 再生可能なサイズが最大720×576までで、DVDと同じ(シーケンスヘッダがGOPごとに配置されている)形式でないと再生できません。 再生できる音声形式は、MPEG1レイヤー2です。リニアPCMとAC-3は再生できません。
DPOF ▶	.mrk	DPOFのバージョンが1.10で、ファイル名がAUTPLAYx.mrk (xは0～9の数字)のもののみ投写できます。



ポイント

- 拡張子が「.jpeg」のJPEGファイルと「.mpeg」のMPEGファイルは投写できません。
- JPEGファイルの特性上、圧縮率が高いと画像がきれいに投写されないことがあります。
- 動画を再生する場合、使用するメモ리카ードは、コンパクトフラッシュカードまたはカード型のハードディスクドライブを推奨します。上記以外のメモ리카ードを使用すると、正しく再生できないことがあります。また、アクセス速度が遅いコンパクトフラッシュカードや、USBストレージ(高ビットレート再生のとき)を使用すると、正しく再生されなかったり、音飛びしたり音が出なくなったりすることがあります。
- ご使用になるメディアをフォーマットする場合は、以下を推奨します。

メモ리카ード	FAT16/32
USBメモリ	FAT16
USBハードディスク	FAT16

CardPlayer では、デジタルカメラの画像ファイルや、メモリカード・USB ストレージ内のシナリオ・画像・動画ファイルを再生し、投写できます。ここでは、CardPlayerの基本的な使用方法について説明します。

CardPlayerの起動方法

操作

- 1 リモコンの[電源]ボタンを押し、プロジェクターの電源を入れます。
- 2 以下のいずれかの操作を行います。
 - プロジェクターのカードスロットにメモリカードをセットします。
☛『取扱説明書』「カードのセットと取り出し」
 - プロジェクターの[USB TypeA]端子に、デジタルカメラまたはUSBストレージを接続します。
☛『取扱説明書』「USB 機器(デジタルカメラ、ハードディスク、メモリ)の接続」

- 3 リモコンの[EasyMP]ボタンを押して投写画面に「EasyMP」と表示されるのを確認してください。

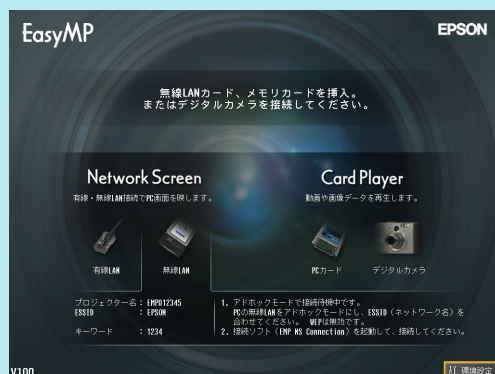
CardPlayer が起動してメモリカード、またはデジタルカメラ、USB ストレージの内容が表示されます。JPEG ファイルはサムネイル表示(ファイルの内容が小さい画像で表示)されます。それ以外のファイルとフォルダはアイコン表示されます。





ポイント

- オートランの設定をしたシナリオがメモリカードにある場合は、最優先でそのシナリオが自動的に再生されます。再生を中止したい場合は、リモコンの[Esc]ボタンを押します。
- プロジェクターのカードスロットにメモリカードがセットされていない、またはプロジェクターとデジタルカメラ、プロジェクターとUSBストレージが接続されていないと、次の画面が表示されます。この場合は、メモリカードをセットするか、デジタルカメラまたはUSBストレージを接続すると、手順3の画面が表示されます。



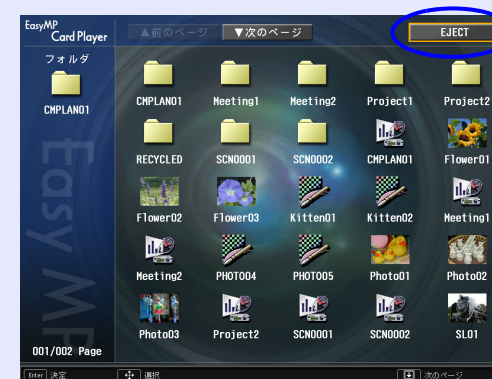
- プロジェクターにメモリカードがセットされ、CardPlayerで内容が表示されているときに、デジタルカメラまたはUSBストレージをプロジェクターに接続しても、その内容を表示することはできません。同様に、デジタルカメラまたはUSBストレージが接続され、CardPlayerで内容が表示されているときに、メモリカードをセットしても、その内容を表示することはできません。
- JPEGファイルによっては、サムネイル表示に切り替えてもサムネイルが表示できないことがあります。その場合はファイルアイコンが表示されます。

CardPlayerの終了方法

操作

1

リモコンの[○]ボタンを上に向けて「EJECT」ボタンにカーソルを合わせます。



2

リモコンの[Enter]ボタンを押します。
CardPlayerが終了し、次の画面が表示されます。



3 プロジェクターのカードスロットからメモリカードを取り出します。

デジタルカメラまたはUSBストレージを接続している場合は、接続している機器の電源を切り、プロジェクターの[USB TypeA]端子から取り外します。



ポイント

CardPlayerを終了しEasyMP待機画面が表示された状態で、メモリカード(またはUSBストレージ)を差し込んだままのときに、再度CardPlayerを起動するには、メモリカード(またはUSBストレージ)を一度取り外し、再度差し込んでください。

CardPlayerの基本操作

CardPlayerの操作には、次の2つの操作モードがあります。

- 「ガイドモード」 : ファイル操作をするためのEasyメニューが表示されます。Easyメニューで項目を選択してファイルの再生やオプション設定などの操作をします。
- 「クイックモード」: ファイルの再生、フォルダを開く、シナリオ編集時の移動元スライド選択と移動先決定を、Easyメニューを使わずにリモコンの[Enter]ボタンを押すだけで実行できます。

初期設定では「ガイドモード」に設定されています。操作モードの設定方法については、「画像・動画ファイルの表示条件と操作モードを設定する」をご覧ください。👉 [p.54](#)

クイックモードでの操作方法については、「クイックモードでの操作方法」をご覧ください。👉 [p.47](#)

Easy メニューの操作方法(ガイドモード)

Easyメニューを使ってシナリオ、画像、動画の再生などをする手順を説明します。

操作

1

リモコンの[○]ボタンを傾けて、操作の対象となるファイルまたはフォルダにカーソルを合わせます。



カーソル



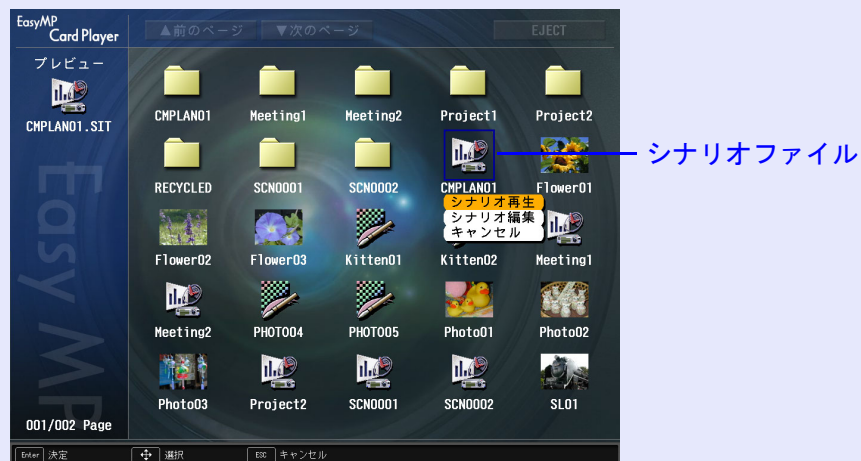
ポイント

現在表示中の画面にすべてのファイルやフォルダが表示しきれていない場合は、リモコンの[+]ボタンを押すか、「次のページ」ボタンにカーソルを合わせてリモコンの[Enter]ボタンを押します。前の画面に戻る場合は、リモコンの[-]ボタンを押すか、「前のページ」ボタンにカーソルを合わせてリモコンの[Enter]ボタンを押します。



2 リモコンの[Enter]ボタンを押します。

Easyメニューが表示されます。



ポイント

[Enter]ボタンを押したときに、シナリオ、画像、動画が再生されたり、フォルダが開いたりする場合は、操作モードが「クイックモード」になっています。☞ p.47

Easyメニューは選択するものによって以下のように表示される項目が異なります。

シナリオを選択した場合

シナリオ再生	シナリオを再生します。☞ p.48
シナリオ編集	シナリオの編集画面を表示します。☞ p.50
キャンセル	何もせずにEasyメニューを閉じます。

画像ファイルを選択した場合

画像再生	画像を再生します。☞ p.52
キャンセル	何もせずにEasyメニューを閉じます。

動画ファイルを選択した場合

動画再生	動画を再生します。☞ p.52
キャンセル	何もせずにEasyメニューを閉じます。

フォルダを選択した場合

フォルダを開く	フォルダを開いてフォルダ内のファイルを表示します。フォルダを開いた画面で、左上のフォルダアイコンを選択して[Enter]ボタンを押します。表示されたメニューで「一つ上の階層へ」を選択して[Enter]ボタンを押すとフォルダを開く前の画面に戻ります。
スライドショー再生	フォルダ内の画像ファイルや動画ファイルを順次再生します。☞ p.53
オプション	オプション設定画面を表示します。CardPlayerでスライドショー再生するときの表示条件と動作モードを設定できます。☞ p.54
キャンセル	何もせずにEasyメニューを閉じます。



■ クイックモードでの操作方法

クイックモードでは次のように、リモコンの[Enter]ボタンを押すと主な機能を直接実行できます。リモコンの[Esc]ボタンを押すとEasyメニューが表示され、別の機能を実行することもできます。

ファイルまたはフォルダ選択時

[Enter]	フォルダ:開く シナリオ、画像、動画:再生
[Esc]	Easyメニュー表示

シナリオ編集集中

[Enter]	移動元スライド選択、移動先決定
[Esc]	Easyメニュー表示、移動状態解除

■ 画像を回転する

CardPlayerで再生したJPEG形式の画像を90°単位で回転できます。スライドショー実行時に再生されるJPEG形式の画像も回転できます。

次の手順でJPEG形式の画像を回転します。

操作

1 JPEG 形式の画像またはシナリオを再生するか、スライドショーを実行します。

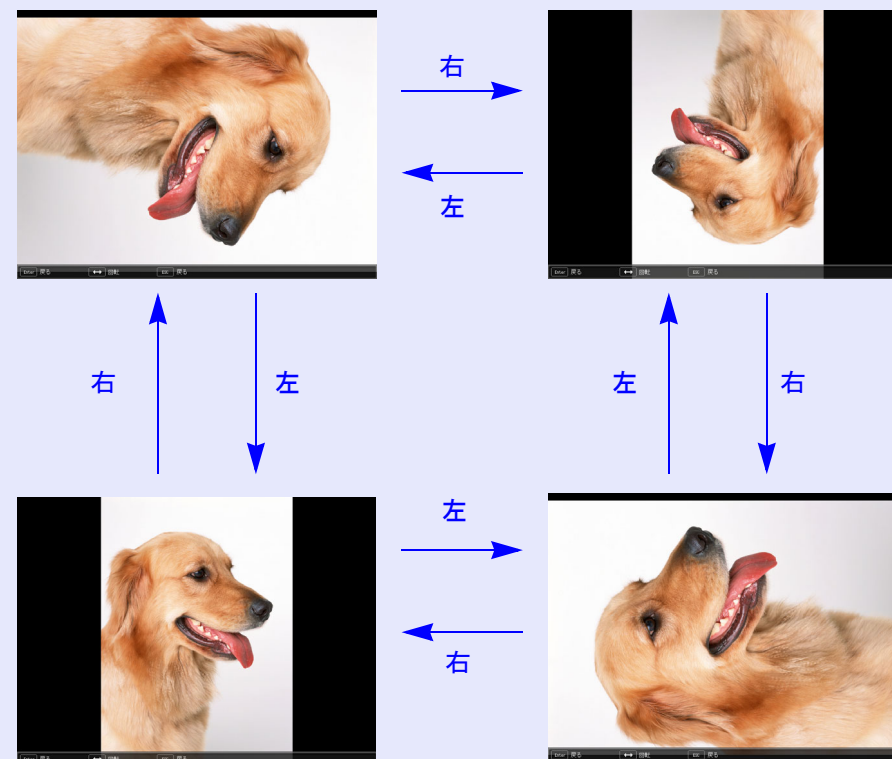
JPEG形式の画像の再生  「画像・動画を投写する」 [p.52](#)

シナリオの再生  「シナリオの再生」 [p.48](#)

スライドショーの実行  「フォルダ内のすべての画像・動画ファイルを順番に投写する (スライドショー)」 [p.53](#)

2 JPEG 形式の画像が再生されたら、リモコンの[○]ボタンを左右に傾けます。

[○]ボタンの傾ける方向と画像の回転は下図のとおりです。



ここでは、メモリカードや USB ストレージに転送したシナリオの再生方法とシナリオ再生中の操作方法、シナリオの編集方法について説明します。

シナリオの再生

再生するシナリオは、事前に EMP SlideMaker2 の「シナリオ転送」機能でメモリカードやUSBストレージに転送しておきます。☞ p.35



ポイント

シナリオにオートランや繰り返しの設定ができます。☞ p.35

操作

1 CardPlayerを起動します。☞ p.43

セットしているメモリカード、またはUSBストレージの内容が表示されます。

2 リモコンの[●]ボタンを傾けて、再生するシナリオファイルにカーソルを合わせます。

3 使用中の操作モードにより、リモコンの以下のボタンを押します。

ガイドモード: [Enter] ボタンを押すと、Easy メニューが表示されます。[●] ボタンを上下に傾けて「シナリオ再生」を選択して [Enter] ボタンを押します。



シナリオファイル

クイックモード: [Enter] ボタンを押します。

4

シナリオが再生されます。「シナリオ動作」が「自動」に設定されている場合は最後まで再生すると、ファイル一覧表示に戻ります。繰り返し設定がされているときは、最後まで再生すると最初から再生を繰り返します。

「シナリオ動作」が「手動」に設定されている場合や、中止、停止を行うには、次の「プレゼンテーション中の操作」をご覧ください。



ポイント

- 投写順の変更や表示・非表示の設定は、シナリオ編集画面で行います。☞ p.50
- シナリオ再生中、JPEG形式の画像が投写されているときは、画像を回転できます。☞ p.47
- シナリオに含まれる動画を再生中に早送り、早戻し、一時停止が行えます。☞ p.53
- シナリオのスライド切り替え時間の設定は、EMP SlideMaker2の「シナリオ動作」で設定できます。☞ p.40

プレゼンテーション中の操作

シナリオ再生中は、リモコンで次の操作ができます。

画面切り替え	[Enter]またはページ[⇅]ボタンを押すと、次の画面に進みます。 ページ[⇅]ボタンを押すと、前の画面に戻ります。
再生の中止	[Esc]ボタンを押すと、「シナリオ再生を終了しますか？」とメッセージが表示されます。「終了する」ボタンを選択して[Enter]ボタンを押すと終了します。「戻る」ボタンを選択して[Enter]ボタンを押すと再生を続けます。

プロジェクター本体の次の機能は CardPlayer でシナリオや画像ファイルを投写しているときも同様に使えます。

- ・ 静止
- ・ A/Vミュート
- ・ Eズーム

各機能の詳細 ➡『取扱説明書』「[静止機能](#)」、「[A/Vミュート機能](#)」、「[Eズーム機能](#)」

シナリオからスライドを選んで投写する

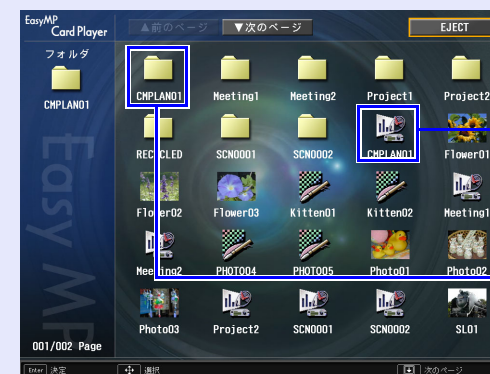
シナリオで使用しているスライドの一覧を表示し、画像や動画を選んで投写できます。

操作

1 CardPlayerを起動します。➡ p.43

セットしているメモリカード、またはUSBストレージの内容が表示されます。

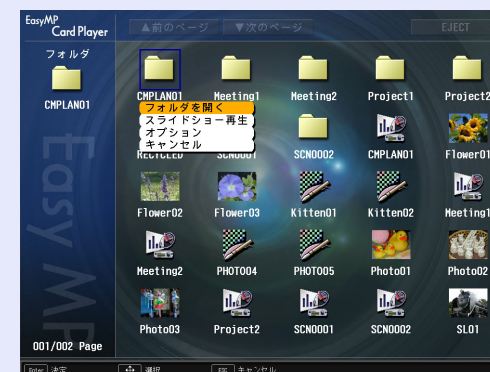
2 リモコンの[⦿]ボタンを傾けて、シナリオアイコンと同名のフォルダにカーソルを合わせます。



3

使用中の操作モードにより、リモコンの以下のボタンを押します。

ガイドモード : [Enter]ボタンを押すと、Easy メニューが表示されます。[⦿]ボタンを上下に傾けて「フォルダを開く」を選択して[Enter]ボタンを押します。



クイックモード: [Enter]ボタンを押します。



- 4 フォルダ内のスライドが表示されます。リモコンの[○]ボタンを傾けて、再生するスライドにカーソルを合わせます。



ポイント

アニメーションが設定されているスライド(拡張子が .EMA)はフォルダ表示されます。このフォルダ内にはアニメーションの各部分に分かれたスライドが収録されているため、指定再生できません。

- 5 使用中の操作モードにより、リモコンの以下のボタンを押します。

ガイドモード : [Enter]ボタンを押すと、Easy メニューが表示されます。メニューで「画像再生」または「動画再生」を選択して[Enter]ボタンを押します。



クイックモード: [Enter]ボタンを押します。

- 6 選択したスライドが再生されます。リモコンの[Enter]ボタンまたは[Esc]ボタンを押すと、スライド一覧表示に戻ります。別のスライドを再生するには、手順 4 から繰り返します。

シナリオの編集

プロジェクターにセットしているメモリカード、または USB ストレージに格納しているシナリオに対して、スライドの投写する順番を変更したり、各スライドの表示・非表示を編集したりできます。

操作

- 1 リモコンの[○]ボタンを傾けて、編集するシナリオアイコンにカーソルを合わせます。

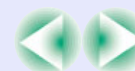
- 2 使用中の操作モードにより、リモコンの以下のボタンを押します。

ガイドモード : [Enter]ボタンを押すと、Easy メニューが表示されます。メニューで「シナリオ編集」を選択して[Enter]ボタンを押します。

クイックモード: [Esc]ボタンを押すと、Easy メニューが表示されます。メニューで「シナリオ編集」を選択して[Enter]ボタンを押します。

- 3 シナリオ編集画面が表示されます。

目的のスライドにカーソルを合わせます。
スライドの順番を入れ替える場合 → 手順4へ進む
スライドを非表示にする場合 → 手順6へ進む

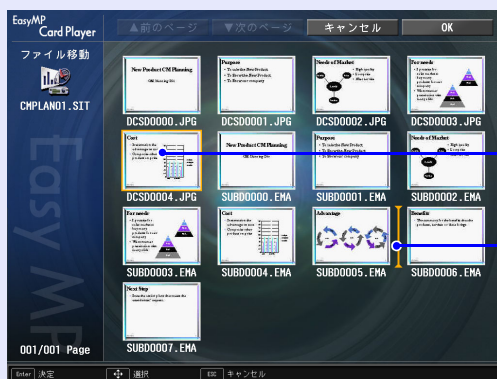


4 使用中の操作モードに合わせて、リモコンの以下のボタンを押します。

ガイドモード : [Enter]ボタンを押すと、Easy メニューが表示されます。メニューで「ファイル移動」を選択して[Enter]ボタンを押します。

クイックモード: 移動したいスライドにカーソルを合わせて[Enter]ボタンを押します。

5 カーソルを移動先に合わせ、リモコンの[Enter]ボタンを押します。



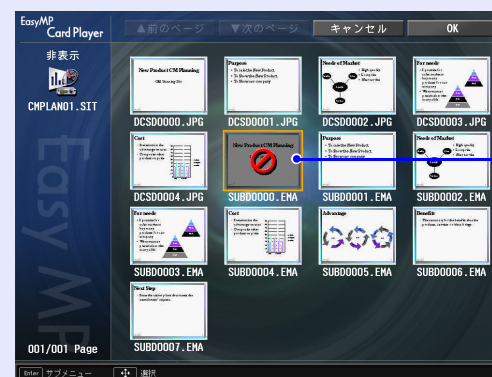
移動したいスライドを選択する

移動先を選択するカーソル

6 スライドを表示しないようにする場合は、目的のスライドにカーソルを合わせて、使用中の操作モードによりリモコンの以下のボタンを押します。

ガイドモード : [Enter]ボタンを押すと、Easyメニューが表示されます。メニューで「表示/非表示」を選択して[Enter]ボタンを押します。

クイックモード: [Esc]ボタンを押すと、Easyメニューが表示されます。メニューで「表示/非表示」を選択して[Enter]ボタンを押します。



非表示マーク

7 編集が終了したら、リモコンの[OK]ボタンを上に向けて「OK」ボタンにカーソルを合わせて、リモコンの[Enter]ボタンを押します。

編集した内容でシナリオが保存され、ファイル一覧表示に戻ります。

保存しない場合は、「キャンセル」ボタンにカーソルを合わせて、リモコンの[Enter]ボタンを押します。

デジタルカメラの画像ファイルや、メモリカード・USB ストレージ内の画像・動画ファイルをCardPlayerで投写するには、次の2通りの方法があります。

- 画像・動画ファイルの投写

1つのファイルの内容を再生して投写する機能です。

- フォルダ内の画像・動画ファイルの順次投写(スライドショー)

フォルダ内のファイルの内容を、順番に1つずつ再生して投写する機能です。



注意

動画投写時は頻繁にメモリカードやUSBストレージにアクセスします。そのときにメモリカードをカードスロットから取り出したり、USBストレージの接続を外さないでください。CardPlayerに異常が発生する場合があります。

画像・動画を投写する

操作

1 CardPlayerを起動します。🖱️ p.43

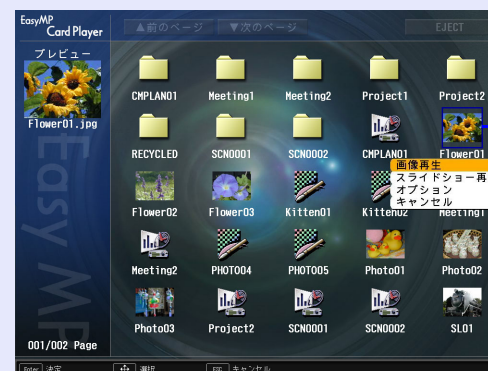
セットしているメモリカード、または接続しているデジタルカメラやUSBストレージの内容が表示されます。

2 リモコンの[●]ボタンを傾けて、投写する画像ファイルまたは動画ファイルにカーソルを合わせます。

3

使用中の操作モードにより、リモコンの以下のボタンを押します。

ガイドモード:[Enter]ボタンを押すと、Easyメニューが表示されます。メニューで「画像再生」または「動画再生」を選択して[Enter]ボタンを押します。

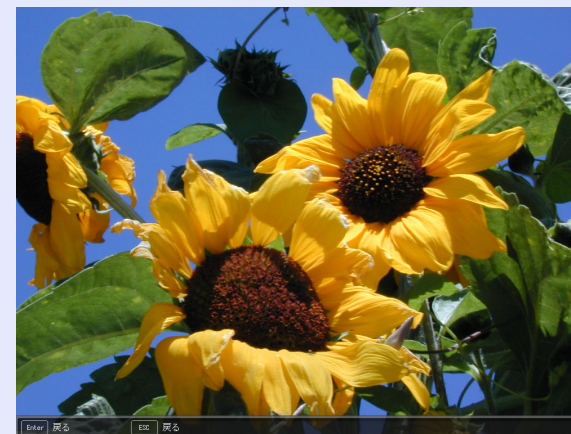


画像ファイル

クイックモード:[Enter]ボタンを押します。

4

画像または動画が投写されます。リモコンの[Enter]ボタンまたは[Esc]ボタンを押すと、ファイル一覧表示に戻ります。





ポイント

- JPEG形式の画像を投写しているときは、画像を回転できます。
☞ p.47
- 動画再生中は、リモコンで次の操作が行えます。
早送り: [⏮] ボタンを右に傾ける
早戻し: [⏭] ボタンを左に傾ける
静止(一時停止): [⏸] ボタンを下に傾ける
早戻し/早送りスピードは3段階あり、ボタンを押すたびに変わります。
通常の再生に戻るには [Enter] ボタンを押します。
早送り・早戻し・静止中は音声は出ません。

フォルダ内のすべての画像・動画ファイルを順番に投写する(スライドショー)

フォルダ内の画像・動画ファイルを順番に1つずつ投写できます。この機能を「スライドショー」と呼びます。以下の手順でスライドショーを実行します。



ポイント

繰り返して投写したり画面切替時の表示に効果をつけるなどの表示条件を設定できます。スライドショーで動画・画像ファイルを自動的に切り替えて表示するには、CardPlayer のオプションで表示時間設定を「なし」以外に設定してください。初期設定: なし ☞ p.54

操作

1 CardPlayerを起動します。☞ p.43

セットしているメモリカード、または接続しているデジタルカメラやUSBストレージの内容が表示されます。

2

リモコンの[⏮]ボタンを傾けて、スライドショーを実行するフォルダにカーソルを合わせます。

3

使用中の操作モードにより、リモコンの以下のボタンを押します。

ガイドモード : [Enter] ボタンを押すと、Easy メニューが表示されます。メニューで「スライドショー再生」を選択して [Enter] ボタンを押します。

クイックモード: [Esc] ボタンを押すと、Easy メニューが表示されます。メニューで「スライドショー再生」を選択して [Enter] ボタンを押します。

4

スライドショーが実行され、フォルダ内の画像・動画ファイルが順に1つずつ投写されます。

最後まで投写すると、自動的にファイル一覧表示に戻ります。オプション画面で「繰り返し再生」を「ON」に設定しているときは、最後まで投写すると最初から投写を繰り返します。

☞ p.54

シナリオと同様、スライドショー投写中は次画面に送る、前画面に戻す、再生を中止することができます。☞ 「プレゼンテーション中の操作」 p.49



ポイント

オプションで表示時間設定を「なし」に設定している場合、スライドショー再生を実行しても自動的にファイルが切り替わりません。リモコンの [Enter] または [⏮] ボタンを押して、次のファイルを投写します。



CardPlayer で画像・動画ファイルをスライドショー再生する場合の表示条件と操作モードを設定できます。表示条件で設定できる内容は繰り返し再生、表示時間設定、表示順序設定、画面切替効果、操作モード切り替えです。

操作

1 リモコンの[○]ボタンを傾けて、表示条件を設定するフォルダにカーソルを合わせます。

2 使用中の操作モードにより、リモコンの以下のボタンを押します。

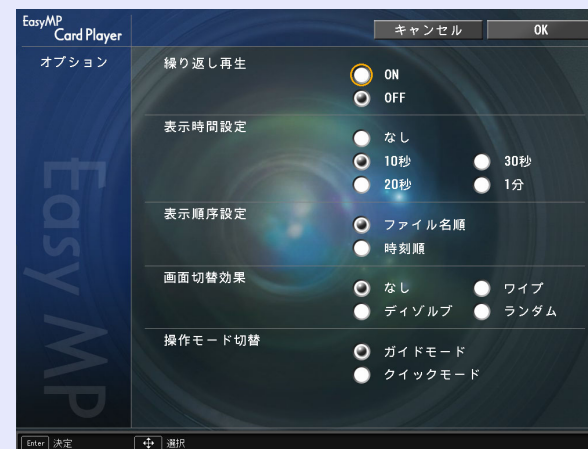
ガイドモード : [Enter]ボタンを押すと、Easyメニューが表示されます。メニューで「オプション」を選択して[Enter]ボタンを押します。

クイックモード : [Esc]ボタンを押すと、Easyメニューが表示されます。メニューで「オプション」を選択して[Enter]ボタンを押します。

3 各項目を設定します。

変更したい項目の設定にカーソルを合わせ、リモコンの[Enter]ボタンを押すと、設定が有効になります。

各項目の詳細は次の表のとおりです。



繰り返し再生	繰り返しスライドショーを実行するかを設定します。
表示時間設定	スライドショー再生で、1つのファイルを表示する時間を設定します。ここで設定した時間が経過すると、自動的に次のファイルが表示されます。「なし」に設定すると、スライドショー再生を実行しても自動的にファイルが切り替わりません。「なし」に設定した場合は、リモコンの[Enter]または[↓]ボタンを押して、次のファイルを表示します。
表示順序設定	表示するファイルの順番を設定します。
画面切替効果	ファイルの内容を表示するときの効果を設定します。
操作モード切替	CardPlayerでの操作モードを切り替えます。初期設定は「ガイドモード」です。ガイドモードの操作方法は「Easyメニューの操作方法(ガイドモード)」(p.45)を、クイックモードの操作方法は「クイックモードでの操作方法」(p.47)をご覧ください。



4 リモコンの[OK]ボタンを上に向けて「OK」ボタンにカーソルを合わせ、[Enter]ボタンを押します。

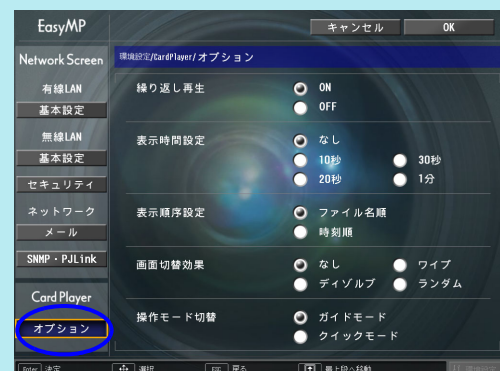
設定が適用されます。

設定を適用したくない場合は、「キャンセル」ボタンにカーソルを合わせて、[Enter]ボタンを押します。



ポイント

CardPlayer のオプション設定は、環境設定画面で行うこともできます。



コンピュータを使ってプロジェクター の設定・監視・制御をする

ここでは、ネットワークを介して接続したコンピュータを使って、プロジェクターの設定を変更したり、管理したりする方法を説明しています。

Webブラウザを使って設定を変更する(EasyWeb) ...	57
• EasyWeb を表示する	57
• Network Screen のツールバーを使う	57
• プロジェクターの IP アドレスを入力する	58
• プロジェクターの設定	58
• Web ブラウザで設定できない環境設定メニューの 項目	58
• Web ブラウザで設定できるネットワーク設定の項目	58
• プロジェクターの制御	58
メール通知機能で異常を通知する	59
• メール通知機能の設定	59
• 異常通知のメールが送られてきたら	60
SNMPを使って管理する	61

プロジェクターとネットワーク接続したコンピュータの Web ブラウザを利用して、コンピュータからプロジェクターの設定や制御が行えます。この機能を使えば、プロジェクターから離れた場所から、設定や制御の操作ができます。また、キーボードを使って設定内容を入力できるので、文字の入力を伴う設定も容易にできます。

Webブラウザは、Microsoft Internet Explorer6.0以降を使用してください。Macintoshをお使いの場合は、Safariも使用できます。ただし、Macintosh 10.2.8でSafariをお使いの場合はEasyWeb上のラジオボタンが一部正しく表示されないことがあります。



ポイント

プロジェクターの環境設定メニューの「拡張設定」→「待機モード」を「ネットワーク有効」に設定しておく、プロジェクターがスタンバイ状態(電源OFFの状態)でも、Webブラウザを使った設定や制御ができます。

EasyWebを表示する

以下のどちらかの手順で、EasyWebを表示します。



ポイント

ご使用の Web ブラウザで、プロキシサーバを使用して接続するように設定されていると、EasyWeb を表示できません。表示したい場合は、プロキシサーバを使用しないで接続するように設定してください。

■ Network Screen のツールバーを使う

操作

- 1 ネットワークを介してプロジェクターとコンピュータを接続します。

☛『EasyMP ネットワーク設定ガイド』「コンピュータとプロジェクターをネットワーク接続する」

- 2 Network Screenのツールバーの「プロジェクター操作 URL表示」アイコンをクリックします。



Webブラウザが起動し、EasyWebが表示されます。



— プロジェクター
の設定

— プロジェクターの
制御

■ プロジェクターの IP アドレスを入力する

プロジェクターのネットワーク設定で「アクセスポイントモード」に設定している場合、または有線 LAN 接続モードで接続している場合は、次のようにプロジェクターの IP アドレスを指定して EasyWeb を開くことができます。

操作

1 コンピュータで Web ブラウザを起動します。

2 Web ブラウザのアドレス入力部に、プロジェクターの IP アドレスを入力し、コンピュータのキーボードの [Enter] キーを押します。

EasyWeb が表示されます。

プロジェクターの設定

プロジェクターの環境設定メニューや、EasyMP の環境設定画面で設定する項目を設定できます。設定した内容は、環境設定メニューや EasyMP の環境設定に反映されます。

■ Web ブラウザで設定できない環境設定メニューの項目

次の項目を除いて、プロジェクターの環境設定メニューの全項目を設定できます。

- 「映像」→「プリセット登録」
- 「設定」→「ポインタ」
- 「設定」→「台形補正」の「Quick Corner」
- 「拡張設定」→「ユーザーロゴ」によるユーザーロゴの登録
- 「拡張設定」→「言語」

- 「初期化」→「全初期化」、「ランプ点灯時間初期化」

各メニューの項目の内容はプロジェクター本体の環境設定メニューと同じです。

☛『取扱説明書』[環境設定メニュー一覧](#)

■ Web ブラウザで設定できるネットワーク設定の項目

EasyMP の環境設定画面でのネットワークに関する全設定項目を設定できます。ただし、「MAC アドレス」は表示されません。

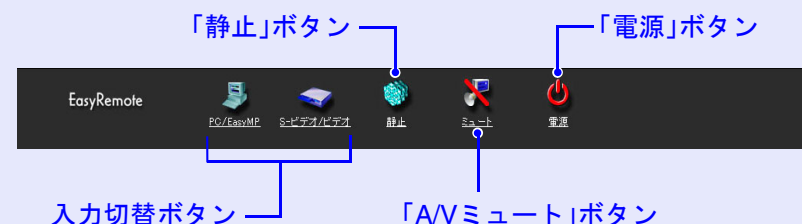
各項目の内容は、EasyMP の環境設定画面と同じです。☛『EasyMP ネットワーク設定ガイド』[「簡単接続モード\(無線 LAN\)」で接続する](#)、「アクセスポイントモードまたは有線 LAN モードで接続する」ただし、次の項目は、EasyWeb のみで設定できます。

優先 ゲートウェイ	メール通知機能、あるいは SNMP トラップで異常を送信するとき、「有線 LAN」「無線 LAN」どちらのネットワーク接続を利用するかを指定します。 EMP NS Connection を使用するネットワーク接続と、異なるネットワーク接続を指定することもできます。
--------------	---

設定を変更した場合は、「反映」ボタンをクリックすると設定内容が反映されます。

プロジェクターの制御

EasyRemote を使うと、リモコンでプロジェクターを制御するのと同じように制御できます。☛『取扱説明書』[リモコン](#)



EasyMP のネットワーク設定でメール通知機能の設定をしておくと、プロジェクターが異常 / 警告状態になったとき、設定したメールアドレスに異常状態が電子メールで通知されます。これにより、離れた場所においてもプロジェクターの異常を知ることができます。



ポイント

- 送信先(宛先)は最大3つまで記憶でき、一括して送ることができます。
- プロジェクターに致命的な異常が発生し、瞬時に起動停止状態になった場合などは、メール送信できないことがあります。
- プロジェクターの環境設定メニューで「拡張設定」→「待機モード」を「ネットワーク有効」に設定しておくと、プロジェクターがスタンバイ状態(電源OFFの状態)でも、監視ができます。

メール通知機能の設定

メール通知機能を設定する前に、次の点をご確認ください。

- プロジェクターとコンピュータがアクセスポイントモードまたは有線 LAN 接続モードで接続できるように、ネットワーク設定をしておきます。
- 『EasyMP ネットワーク設定ガイド』『アクセスポイントモードまたは有線LANモードで接続する』

操作

- 1 プロジェクターをEasyMP待機画面にします。

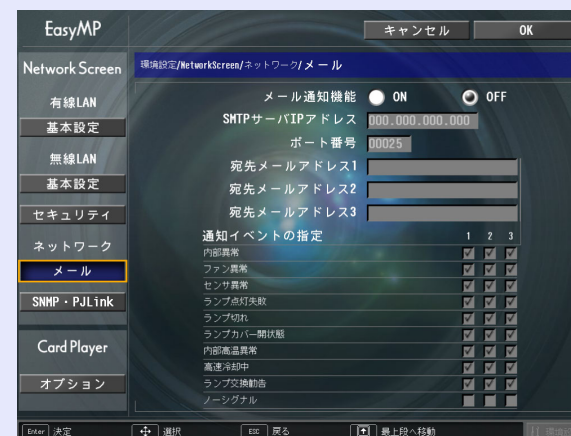
☛『EasyMP ネットワーク設定ガイド』『プロジェクターを接続待機状態にする』

- 2 画面右下の「環境設定」ボタンが選択されていることを確認し、リモコンの[Enter]ボタンを押します。

- 3 「ネットワーク」→「メール」ボタンにカーソルを移動し、リモコンの[Enter]ボタンを押します。

- 4 設定する項目にカーソルを移動し、[Enter]ボタンを押して各項目を設定します。

項目によっては文字や数値の入力が必要な場合があります。文字や数値の入力方法は「文字や数値の入力方法」(☛ p.23)をご覧ください。



メール通知機能	メール通知を行う場合に「ON」を選択します。
SMTPサーバIPアドレス	プロジェクターが使うSMTPサーバのIPアドレスを入力します。 アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力できます。ただし、以下のIPアドレスは使用できません。127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255 (xは0～255の数字)
ポート番号	SMTPサーバのポート番号を入力します。初期値は25です。 1～65535までの有効な数値を入力できます。
宛先メールアドレス1/2/3	通知メールの送信先のメールアドレスを、最大3件まで登録できます。 半角英数字で最大53文字まで入力できます。 EasyMPの環境設定画面では32文字を超える入力はありません。EasyWebから設定すると、32文字を超える入力ができます。  p.57
通知イベントの指定	メールで通知するプロジェクターの異常/警告を選択します。選択した異常/警告がプロジェクターで起きたときに、「宛先メールアドレス」で指定したメールアドレスに異常/警告が発生したことを通知します。 表示されている項目より複数選択できます。

※「クリア」ボタンが表示される項目では、「クリア」ボタンを選択してリモコンの[Enter]ボタンを押すと、入力内容が消去されます。

5 リモコンの[+]ボタンを押してカーソルを「OK」ボタンに移動し、[Enter]ボタンを押します。

EasyMP待機画面に戻ります。

異常通知のメールが送られてきたら

メール通知先に設定した[IPアドレス](#)に、件名が「EPSON Projector」と記載されたメールが送信されてきたら、それがプロジェクターの異常を通知するメールです。

メールの本文には次のことが記載されています。

1行目: 異常が生じたプロジェクターのプロジェクター名

2行目: 異常が生じたプロジェクターに設定されているIPアドレス

3行目以降: 異常の内容

異常の内容は、1行に1つずつ記載されています。メッセージの示す内容は次表のとおりです。

メッセージ※	原因	対処方法
Internal error	内部異常	 『取扱説明書』 「インジケータの見方」
Fan related error	ファン異常	
Sensor error	センサ異常	
Lamp cover is open.	ランプカバー開状態	
Lamp timer failure	ランプ点灯失敗	
Lamp out	ランプ切れ	
Internal temperature error	内部高温異常 (オーバーヒート)	
High-speed cooling in progress	高速冷却中	
Lamp replacement notification	ランプ交換勧告	
No-signal	ノーシグナル	
		プロジェクターに映像信号が入力されていません。接続状態や、接続している機器の電源が入っているかを確認してください。

※メッセージの最初に(+)や(-)が付きます。

(+): 本機に異常が発生した場合

(-): 本機の異常が対処された場合

EasyMP のネットワーク設定で SNMP の設定をしておくと、プロジェクターが異常 / 警告状態になったとき、設定したコンピュータに異常状態が通知されます。これにより、離れた場所で集中管理している状態でもプロジェクターの異常を知ることができます。



ポイント

- SNMP による管理は、必ず、ネットワーク管理者などネットワークに詳しい人が行ってください。
- SNMP 機能を使ってプロジェクターを監視するには、コンピュータ側に SNMP マネージャプログラムがインストールされている必要があります。
- SNMP を使った管理機能は、無線 LAN の簡単接続モードでは使用できません。
- 通知先の IP アドレスは 2 つまで登録でき、1 番目に指定した IP アドレスに通知できなかった場合、2 番目の IP アドレスに通知されます。

操作

- 1 プロジェクターを EasyMP 待機画面にします。
☞『EasyMP ネットワーク設定ガイド』『プロジェクターを接続待機状態にする』
- 2 画面右下の「環境設定」ボタンが選択されていることを確認し、リモコンの [Enter] ボタンを押します。
- 3 「ネットワーク」→「SNMP・PJLink」ボタンにカーソルを移動し、リモコンの [Enter] ボタンを押します。

4

設定する項目にカーソルを移動し、[Enter] ボタンを押して各項目を設定します。

数値の入力方法は「文字や数値の入力方法」(☞ p.23)をご覧ください。



SNMP トラップ IP アドレス 1/2

SNMP の **トラップ** を通知するコンピュータの IP アドレスを入力します。
「SNMP トラップ IP アドレス 1」で指定した IP アドレスに通知できなかった場合、「SNMP トラップ IP アドレス 2」で指定した IP アドレスに通知されます。アドレスの各フィールドには 0～255 の数字を入力できます。
ただし、以下の IP アドレスは使用できません。
127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255 (x は 0～255 の数字)

※「クリア」ボタンが表示される項目では、「クリア」ボタンを選択してリモコンの [Enter] ボタンを押すと、入力内容が消去されます。

5

リモコンの [↑] ボタンを押してカーソルを「OK」ボタンに移動し、[Enter] ボタンを押します。

EasyMP 待機画面に戻ります。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (5) 本製品がお客様により不適當に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、またはエプソンおよびエプソン指定の者以外の第三者により、修理、変更されたこと等に起因して生じた損害等につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6) エプソン純正品、およびエプソン品質認定品以外のオプション品または消耗品を装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (7) 本書中のイラストと本体の形状は異なる場合があります。

本製品を日本国外へ持ち出す場合の注意

電源ケーブルは販売国の電源仕様に基づき同梱されています。本機を販売国以外で使用する際には、事前に使用する国の電源電圧や、コンセントの形状を確認し、その国の規格に適合した電源ケーブルを現地にてお求めください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬低(瞬時電圧低下)基準について

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

電源高調波について

この装置は、JIS C 61000-3-2「高調波電流発生限度値」に適合しております。

商標について

IBM、DOS/V、XGA は、International Business Machines Corp. の商標または登録商標です。

Macintosh、Mac、iMacは、Apple Computer Inc.の登録商標です。

Windows、WindowsNT、VGAは米国マイクロソフト社の商標または登録商標です。

ドルビーはドルビーラボラトリーズの商標です。

Cisco Systemsは米国その他の国におけるシスコシステムズ株式会社の登録商標です。

Pixelworks、DNXはPixelworks社の商標です。

EasyMPはセイコーエプソン株式会社の商標です。

Portions of this software are based in part on the work of the Independent JPEG Group.

Portions Copyright©2003 Instant802 Networks Inc. All rights reserved.

なお、各社の商標および製品商標に対しては特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

本製品は、オープンソースソフトウェアを利用しております。